

第7回 第4次静岡市総合計画策定会議

日時：2022年4月25日（月）

9時30分から11時00分

会場：オンライン会議（各執務室）

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 令和3年度検討状況及び令和4年度予定 資料1
- 4 議題
 - (1) （仮）7つの柱の検討について 資料2
- 5 報告事項・その他連絡事項
 - (1) 第1回パブリックコメントの結果及び対応 資料3
 - (2) 分野別計画 検討状況 資料4
 - (3) Voice of しずおか実施報告 資料5
 - (4) 今後のスケジュール 資料6
- 6 閉会

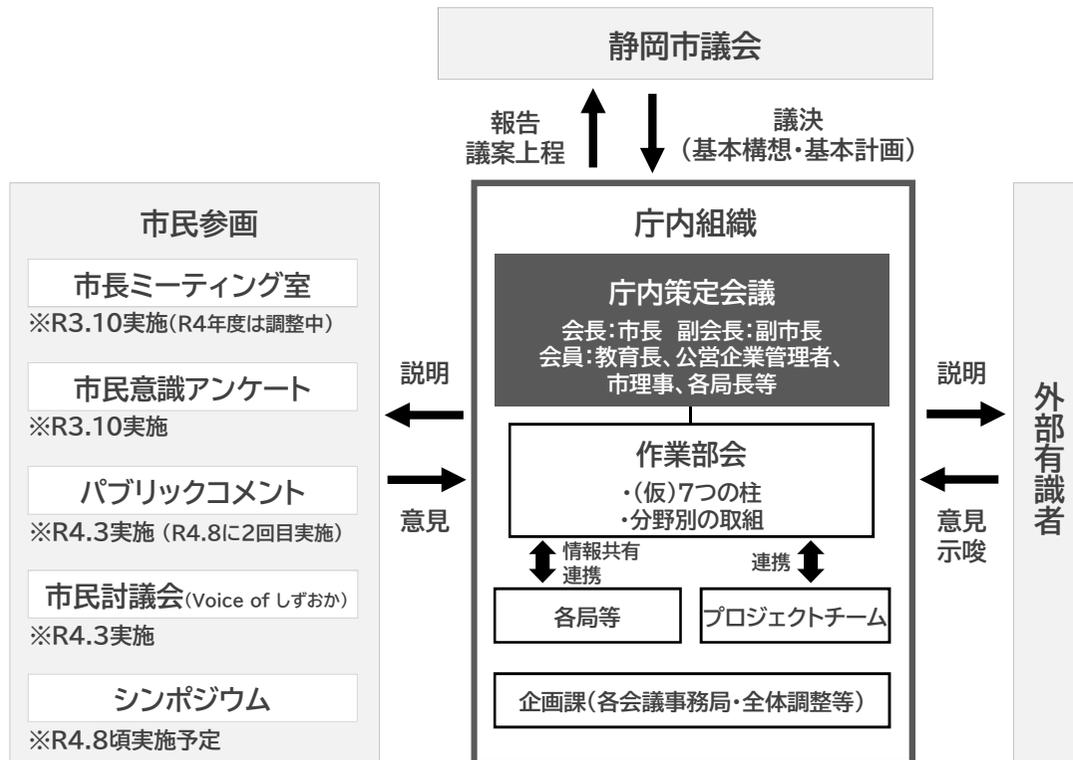
次回会議（予定）

・ 5月16日（月）14:30～16:00 第8回策定会議

R3年度検討状況

- 令和3年度は6回の庁内策定会議を開催し、主に基本構想の内容や基本計画の体系等について議論した。また、「(仮)7つの柱」・「分野別の取組」については、各局に部会員を選出いただいた上で作業部会を設置し、政策体系や具体的な取組内容について検討を進めた。
- さらに、各局の若手・中堅職員によるプロジェクトチームを組成し、主に「(仮)7つの柱」の検討作業に積極的に関わっていただいた。
- 市民参画手続については、令和3年10月に市長ミーティング室・市民意識アンケートを実施した。また、複数の外部有識者から意見を伺い、計画策定の参考とした。
- こうした検討を経て、令和4年2月に、基本構想・基本計画の骨子案を取りまとめ、市議会2月定例会の市議会協議会において、全議員への説明を行った。
- その後、令和4年3月には、骨子案についてのパブリックコメント・市民討議会（Voice of しずおか）を実施した。ここで得られた市民意見を参考としながら、令和4年度に引き続き検討を進めていく。

【策定体制】



【庁内策定会議 開催実績】

	議題
第1回策定会議 (6/15)	<ul style="list-style-type: none"> 計画策定の基本方針 基本構想の考え方 計画の体系イメージ
第2回策定会議 (7/20)	<ul style="list-style-type: none"> 目標人口の考え方 基本構想の概要 3次総の評価及び4次総の方向性 各部会の進め方 市民参画、有識者ヒアリング
第3回策定会議 (9/15)	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想 4次総における人口目標 (仮)7つの柱におけるロジックモデルの検討
第4回策定会議 (11/15)	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想(骨格案)について 4次総の体系について SDGsの取組について
第5回策定会議 (12/9)	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想について 4次総の体系について (仮)7つの柱の進捗状況について 4次総における政策・施策評価について
※電子会議室 (12/17~12/23)	<ul style="list-style-type: none"> (仮)7つの柱について ※検討会議会員からの意見聴取
第6回策定会議 (2/1)	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想について 4次総の体系について (仮)7つの柱について パブリックコメントについて

基本構想案

	3次総	4次総
構想の期間	終期なし	終期なし(ただし概ね2040年頃を見据える)
まちづくりの目標	「世界に輝く静岡」の実現	「世界に輝く静岡」の実現
構成	1 まちづくりの目標	1 策定の趣旨
	2 目指す都市像 (1)「歴史文化のまち」づくり (2)「健康長寿のまち」づくり	2 まちづくりの目標 3 まちづくりの目標を達成するために目指す都市像 (1)静岡市が擁する地域資源を磨き、輝かせ、世界から注目され、人々が集まるまち (2)静岡市に暮らす市民一人ひとりが、輝いて自分らしい人生を謳歌できるまち
	3 市政のさらなる展開 (1)「創造する力」による「都市の発展」 (2)「つながる力」による「暮らしの充実」	
	4 基本計画の策定	4 目指す都市像の実現に向けた取組

1 策定の趣旨

時代は今、かつてないほどの目まぐるしい速さで変化を続けています。世界情勢は刻々と変わり、地球規模での気候変動を始めとする環境問題や、我が国の人口減少、少子高齢化は、深刻さを増しています。こうした変化に対応するため、様々な科学技術の発展が進み、私たちの生活や働き方を大きく変容させています。この先も、世の中で起こる変化に対して、私たちは柔軟かつ迅速に対応していかなければなりません。

しかし一方で、どれだけ技術が進歩し、社会環境が変化したとしても、私たちが内面に秘める本質や人間らしさを求める思いは変わることはありません。私たちは今、形あるものに価値が置かれ、その豊かさが重視された成長・拡大の時代を抜け、情報や体験、心の豊かさといった新たな価値観のもと、個人の幸せを追求する成熟・持続可能な時代にいます。

こうした時代にあって、静岡市が今後、市民のためにどのようなまちを目指すのか。静岡市の未来を切り拓く指針として、基本構想を定めます。

2 まちづくりの目標

静岡市は、静岡県のほぼ中央に位置し、北に標高3,000m級の南アルプスの壮大な山々が連なり、南に水深2,500mの日本一深い駿河湾が広がる、類い稀な自然を有しています。一年を通じた温暖な気候と豊富な日照時間がもたらす住みやすい生活環境の下、長い歴史において、先人たちにより多彩な文化が培われてきました。

古くは登呂遺跡に代表される弥生時代から、今川文化が花開いた室町・戦国時代を経て、大御所徳川家康公の時代には駿府城が築かれました。また、東海道二峠六宿が東西交通の要衝として発達し、現在も地域の核となっています。このような長い歴史と地勢的な利点から、多くの人が行き交い、多様な産業が育まれてきました。

こうした歴史や産業を背景に、“商都”として栄えてきた静岡都心、国際拠点港湾の清水港を擁する“港湾都市”である清水都心、教育機関が集積する草薙・東静岡副都心の各拠点が核となり、高度な都市機能を備えた静岡県中部の中核都市として発展を遂げています。

このように、静岡市は都心部と海、山、川などの豊かな自然、歴史、産業、文化がバランス良く融合した、世界的にも恵まれた都市環境を有し、新しい時代を切り拓く要素を豊富に備えています。

これから静岡市が目指すのは、人口や産業が過度に集積し、時間の流れが急速に進む大都市ではなく、一定の経済力を有しながら固有の歴史や文化、自然と調和した、人々が人生を謳歌できる持続可能な都市です。

市民一人ひとりが幸せに満ちた人生を送り、静岡市の地域資源（静岡らしさ）を最大限に活かすことで世界に存在感を示す、すなわち「『世界に輝く静岡』の実現」をまちづくりの目標に掲げます。

3 まちづくりの目標を達成するために目指す都市像

「『世界に輝く静岡』の実現」を達成するために、以下の2つの都市像を目指します。

- ～静岡市が擁する地域資源を磨き、輝かせ、世界から注目され、人々が集まるまち～
- ～静岡市に暮らす市民一人ひとりが、輝いて、自分らしい人生を謳歌できるまち～

4 目指す都市像の実現に向けた取組

目指す都市像を実現するために、この基本構想に則した基本計画を策定し、政策・施策を円滑かつ着実に推進していきます。

推進にあたっては、市民、企業、行政が互いに手を取り合い、あらゆる場面で活躍できるシチズンシップに富んだ人材を育て、新たな価値を生み出しながら取り組んでいきます。

加えて、国籍や性別、障がいの有無など、人々の多様性を尊重しつつ、私たちが暮らす地球の豊かな環境や生態系を守りながら、経済、社会、環境が調和したまちづくりを進めます。

そして、静岡市を訪れ静岡市と関わる人々の輪を広げ、まちの活力を高めていきます。

4次総構成案

まちづくりの目標 世界に輝く静岡の実現

まちづくりの目標を達成するために目指す都市像	~ “まち” が輝く ~ 静岡市が擁する地域資源を磨き、輝かせ、世界から注目され、人々が集まるまち	~ “市民” が輝く ~ 静岡市に暮らす市民一人ひとりが、輝いて、自分らしい人生を謳歌できるまち
目指す都市像の実現に向けた取組	基本構想に即した基本計画を策定し、以下に留意しながら政策・施策を円滑かつ着実に推進する。 > 市民、企業、行政が互いに手を取り合い、あらゆる場面で活躍できるシチズンシップに富んだ人材を育て、新たな価値を生み出しながら取り組む > 国籍や性別、障がいの有無など、人々の多様性を尊重しつつ、地球の豊かな環境や生態系を守りながら、経済、社会、環境が調和したまちづくりを進める > 静岡市を訪れ、静岡市と関わる人々の輪を広げ、まちの活力を高める	



~人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにする~

重点目標	定住人口の減少を抑えつつ、交流人口、関係人口を創出し、「まちの魅力の向上」と「市民の生活の質の向上」を図る 2つのテーマ <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="background-color: #90ee90; padding: 5px; border: 1px solid black;"> まちの魅力の向上 (→“まち”が輝く) </div> <div style="background-color: #ffcc99; padding: 5px; border: 1px solid black;"> 市民の生活の質の向上 (→“市民”が輝く) </div> </div> <div style="margin-top: 5px; border: 1px solid gray; padding: 2px;"> 指標案：市内GDP 市民満足度 など </div>	横断的視点 (時代の要請や国際社会の期待に応えるために意識する視点) <div style="margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; text-align: center; margin-bottom: 5px;">SDGsの推進</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; text-align: center; margin-bottom: 5px;">DXの推進</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; text-align: center;">脱炭素社会の実現</div> </div>
-------------	--	--

重点目標を達成するための取組

まちの魅力の向上(→“まち”が輝く)
市民の生活の質の向上(→“市民”が輝く)

(仮)7つの柱
 (4次総におけるリーディングプロジェクト)
 抽出・再編

歴史文化の地域づくり
(静岡都心)

海洋文化の地域づくり
(清水都心)

まなびの文化の地域づくり
(草薙・東静岡副都心)

森林文化の地域づくり
(オクスズ)

まちは劇場の推進

健康長寿のまちの推進

安全・安心のまちの推進

分野別の取組
 (市民の暮らしや経済活動など、市政全般の取組)

観光・交流

農林水産

商工・物流

文化・スポーツ

子ども・教育

都市・交通

社会基盤

健康・福祉

防災・消防

生活・環境

各分野の取組を推進するための基本認識

市民との協働

民間活力の導入

アセットマネジメントの推進

広域行政の推進

多文化共生の推進

男女共同参画の推進

R4年度の予定

- 令和4年度の策定会議では、4次総における具体的な取組内容について、「(仮)7つの柱」と「分野別の取組」を中心に、作業部会での検討状況を踏まえながら議論を深めていく。併せて、4次総全体の重点目標や指標、横断的視点の取扱い等についても検討を進める。
- 市民参画については、市長ミーティング室の他、4次総の原案を広く公表する場としてシンポジウムの開催、さらに2回目のパブリックコメントなどを実施する予定。また、各局が個別に実施する市民参画手続で得られる市民意見なども、4次総策定の参考としていく。
- それらの検討を経た上で、市議会11月定例会において、基本構想・基本計画の策定についての議案を上程する予定。
- また、具体の事業については、実施計画として取りまとめた上で市議会2月定例会において報告する予定。

【庁内策定会議・市民参画手続・有識者ヒアリング予定】

	庁内策定会議	市民参画手続
4月	第7回策定会議（25日） 議題：(仮)7つの柱、パブコメ報告 など	
5月	第8回策定会議（16日） 議題案：重点目標、横断的視点 など	
6月	第9回策定会議（13日） 議題案：重点目標、(仮)7つの柱、分野別の取組、取組を推進するための基本認識 など	
7月	第10回策定会議（14日） 議題案：パブコメ（2回目）案、有識者ヒアリング結果 など	<ul style="list-style-type: none"> 市長ミーティング室（調整中）
8月		<ul style="list-style-type: none"> シンポジウム パブリックコメント（2回目）
9月	第11回策定会議（26日） 議題案：基本構想・基本計画案	
10月		
11月	議案上程（基本構想・基本計画）	

※詳細は資料6「4次総全体スケジュール」のとおり

令和4年度（仮）7つの柱 ロジックモデル 検討スケジュール(予定)

- 第7回 4次総策定会議(4月25日)**
作業部会で作成した(仮)7つの柱 ロジックモデル骨子案について、
状況報告
- 第2回 4次総策定電子会議(4月下旬～5月中旬)**
第7回会議で説明した(仮)7つの柱 ロジックモデルに関して、
電子会議室で各局長、区長からご意見をいただく
- 第9回 4次総策定会議(6月13日)**
(仮)7つの柱 ロジックモデルについて、電子会議室等の意見を踏まえた
修正版を策定会議の場で説明
(ロジックモデル骨子案+基本計画文章化案にて、説明予定)
※各柱担当者(企画課・PTメンバー)が説明
- 第10回 4次総策定会議(7月14日)**
第2回パブコメ資料について検討
※(仮)7つの柱については、目指す姿、最終アウトカム、主要事業を掲載予定



第2回4次総パブリックコメント(8月)



- 第11回 4次総策定会議(9月26日)**
第2回パブコメ(8月実施予定)を踏まえた基本計画文章案の検討を行う

- 令和4年12月をめぐりに、ロジックモデルの最終案を決定
- 令和5年1月下旬に、令和5年度当初予算内示を受けて、登載事業の修正を行い、ロジックモデルを確定する

(仮)7つの柱検討作業部会 構成課一覧

柱	部会構成課
歴史文化の地域づくり	観光交流文化局：歴史文化課、文化財課、観光・MICE 推進課 都市局：都市計画課、市街地整備課、緑地政策課
海洋文化の地域づくり	経済局：海洋文化都市政策課、水産漁港課、産業政策課、産業振興課 環境局：環境創造課、ごみ減量推進課 観光交流文化局：観光・MICE 推進課 都市局：都市計画課
まなびの文化の地域づくり	企画局：企画課、アセットマネジメント推進課 市民局：生涯学習推進課 環境局：環境保健研究所 観光交流文化局：スポーツ振興課、スポーツ交流課 都市局：大谷・小鹿まちづくり推進課、清水駅周辺整備課
森林文化の地域づくり	経済局：中山間地振興課、農業政策課、農地利用課、農地整備課、治山林道課 観光交流文化局：観光・MICE 推進課 環境局：環境創造課 建設局：道路計画課 各区役所：葵区役所地域総務課、清水区役所地域総務課
まちは劇場の推進	観光交流文化局：まちは劇場推進課、文化振興課 経済局：商業労政課 都市局：都市計画課、緑地政策課、公園整備課 建設局：道路計画課
健康長寿のまちの推進	保健福祉長寿局：地域包括ケア推進本部、福祉総務課、介護保険課、健康づくり推進課、高齢者福祉課、地域リハビリテーション推進センター 経済局：商業労政課 環境局：環境保健研究所 都市局：交通政策課
安全安心のまちの推進	危機管理総室 市民局：男女共同参画・人権政策課、生活安心安全課 観光交流文化局：国際交流課 環境局：環境保健研究所、ごみ減量推進課 保健福祉長寿局：福祉総務課、保健衛生医療課、保健予防課 子ども未来局：子ども未来課 建設局：道路保全課、河川課 消防局：消防総務課 各区役所：葵区役所地域総務課、駿河区役所地域総務課、清水区役所地域総務課

※各柱のロジックモデルについて、明治大学 北大路名誉教授、源教授の助言を受けながら検討を進めている。

(仮) 7つの柱におけるロジックモデル検討について

(仮) 7つの柱をロジックモデルで整理する理由

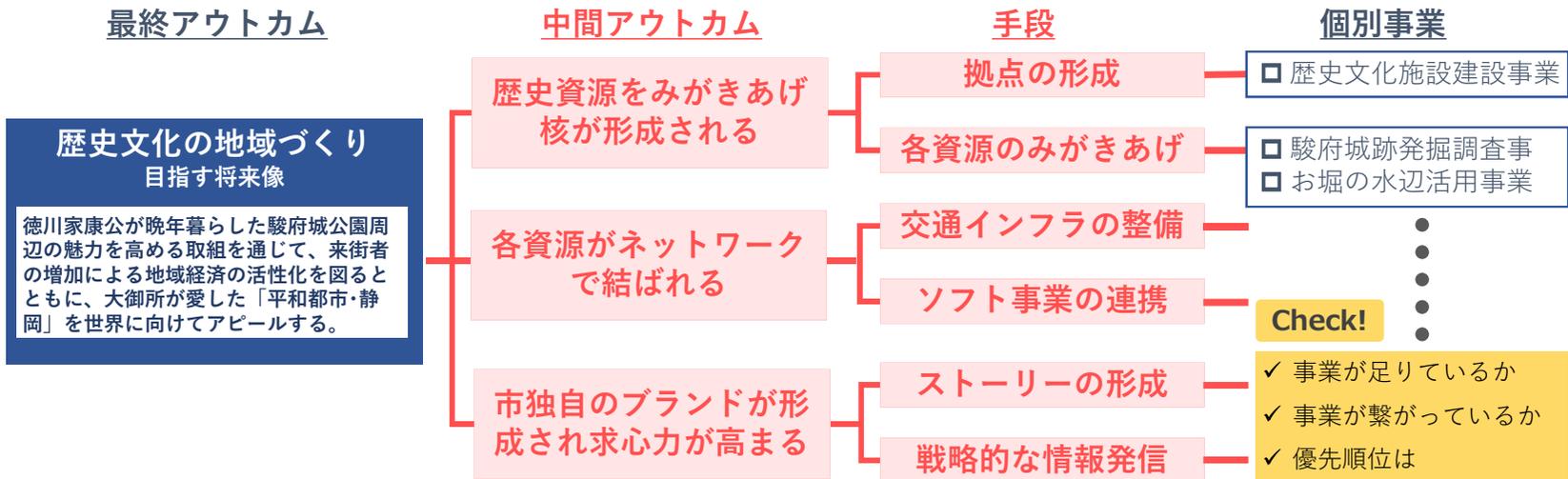
体系的に整理することで目的と手段を明確化

3次総の5大構想では実現すべき将来像に向けた事業群（関係事業をグルーピングしただけ）となっているため、(仮) 7つの柱のロジックモデルを組み立てることで、目指す将来像からのバックキャストで体系的に整理し、取組の目的と手段を明確化する

現在 5大構想は事業がグルーピングされた事業群になっている



今後 ロジックツリーを活用し、目的-手段の関係に整理する



目指す姿

市民の歴史認識が醸成され、静岡に誇りと愛着を持つとともに、徳川氏・今川氏を中心とした歴史資源を活用し、世界中から人が集まり駿府城公園周辺が賑わっている

政策・施策体系

関連するSDGsゴール及びターゲット



(仮) 7つの柱 政策・施策体系イメージ (海洋文化の地域づくり)

目指す姿

世界的にも希少な海洋環境である「駿河湾」、多様な海洋資源が集積する「清水港」を活かし、産業・研究・観光が生まれ高めあう「国際海洋文化都市」として、清水港周辺が賑わっている

関連するSDGsゴール及びターゲット



政策・施策体系



破線…4次総期間中に取り組みべき内容を絞るため、今回のロジックモデルでは採用しない

(仮) 7つの柱 政策・施策体系イメージ (まなびの文化の地域づくり)

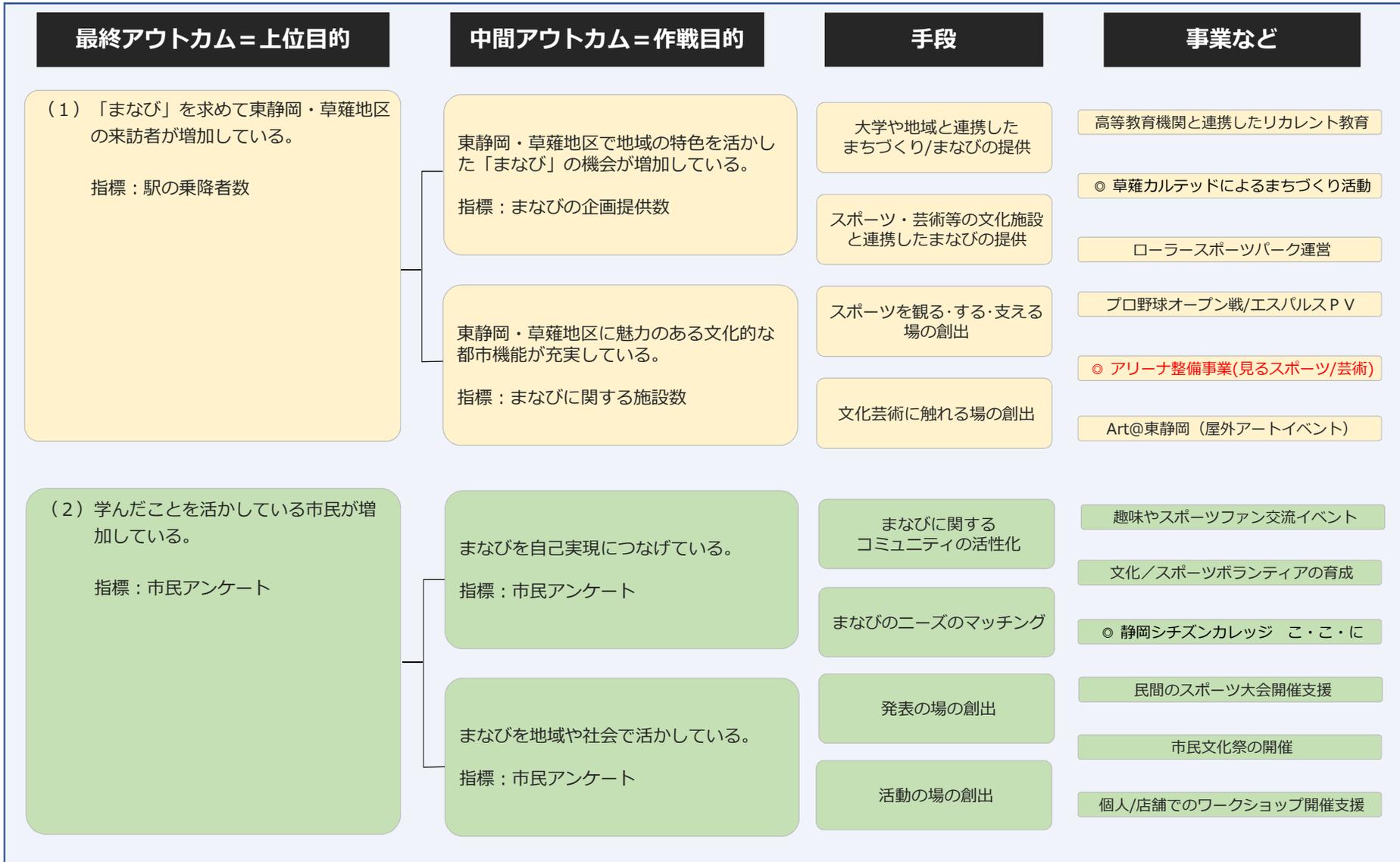
目指す姿

学習や芸術活動、スポーツなどの多様な「まなび」に関する施設や機関が集積する東静岡・草薙地区の賑わいが創出されるとともに、市民が学んだことを活かしている状態

関連するSDGsゴール及びターゲット



政策・施策体系



(仮) 7つの柱 政策・施策体系イメージ (森林文化の地域づくり) 【オクシズ】

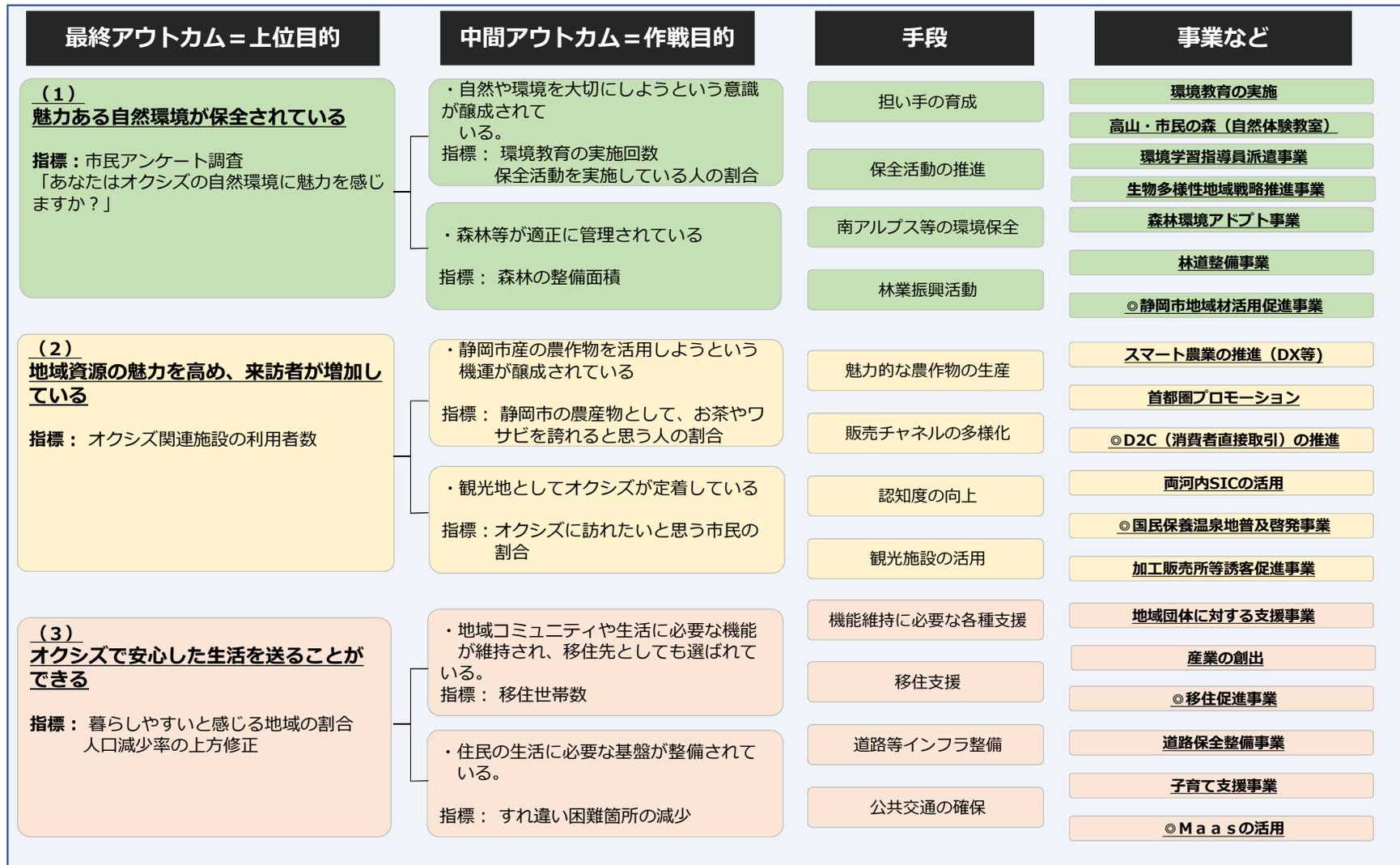
目指す姿

オクシズとまちが支え合い、豊かな自然環境の保全と、地域資源を活用した経済活動が両立することで、オクシズが賑わっている。

関連するSDGsゴール及びターゲット



政策・施策体系

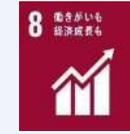


(仮) 7つの柱 政策・施策体系イメージ (まちは劇場の推進)

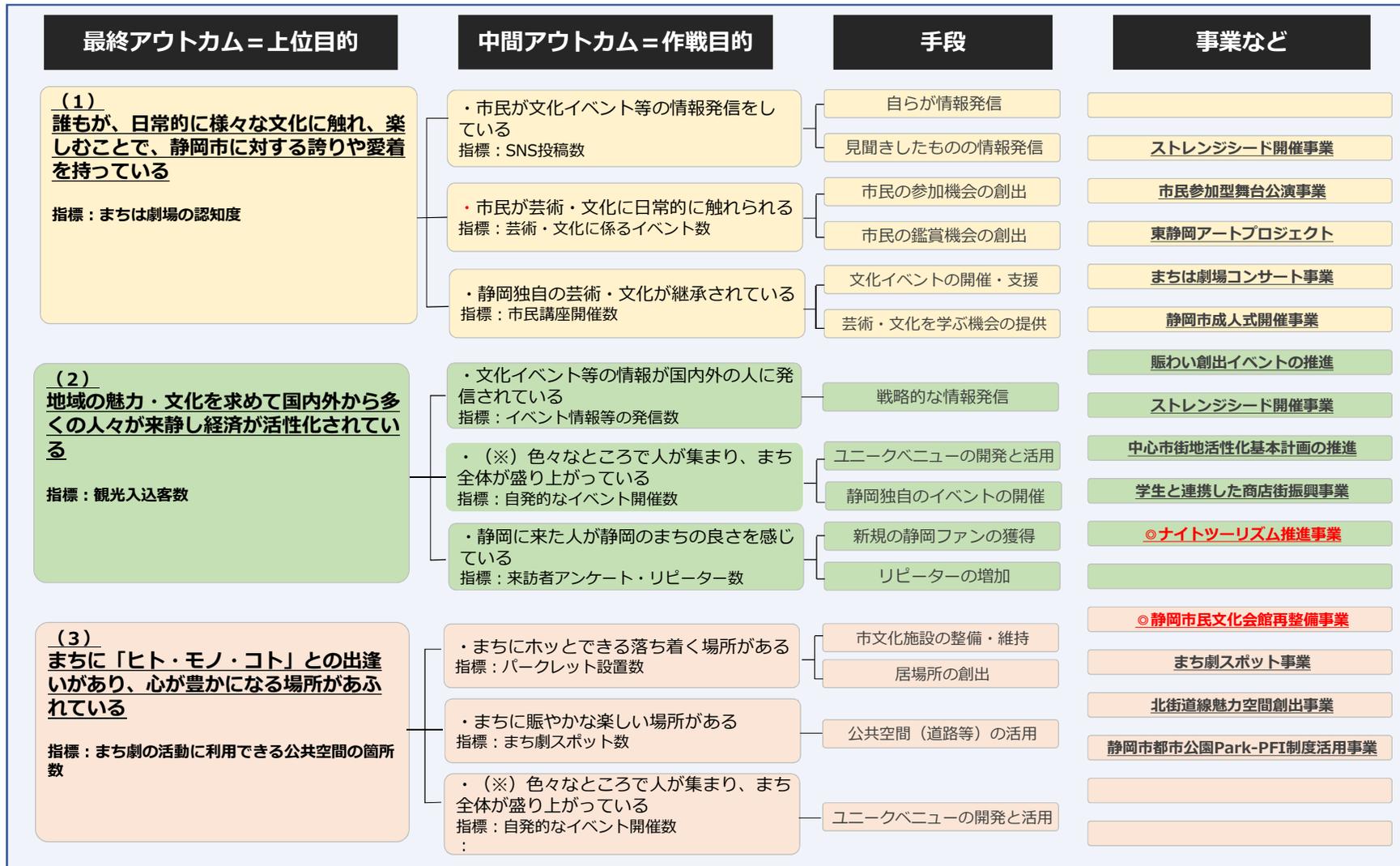
目指す姿

地域に根付いた大道芸や演劇・音楽などの『文化』の力により、一人ひとりの心を豊かに満たし、365日誰もが輝いている状態

関連するSDGsゴール及びターゲット



政策・施策体系

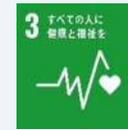


(仮) 7つの柱 政策・施策体系イメージ (健康長寿のまちの推進)

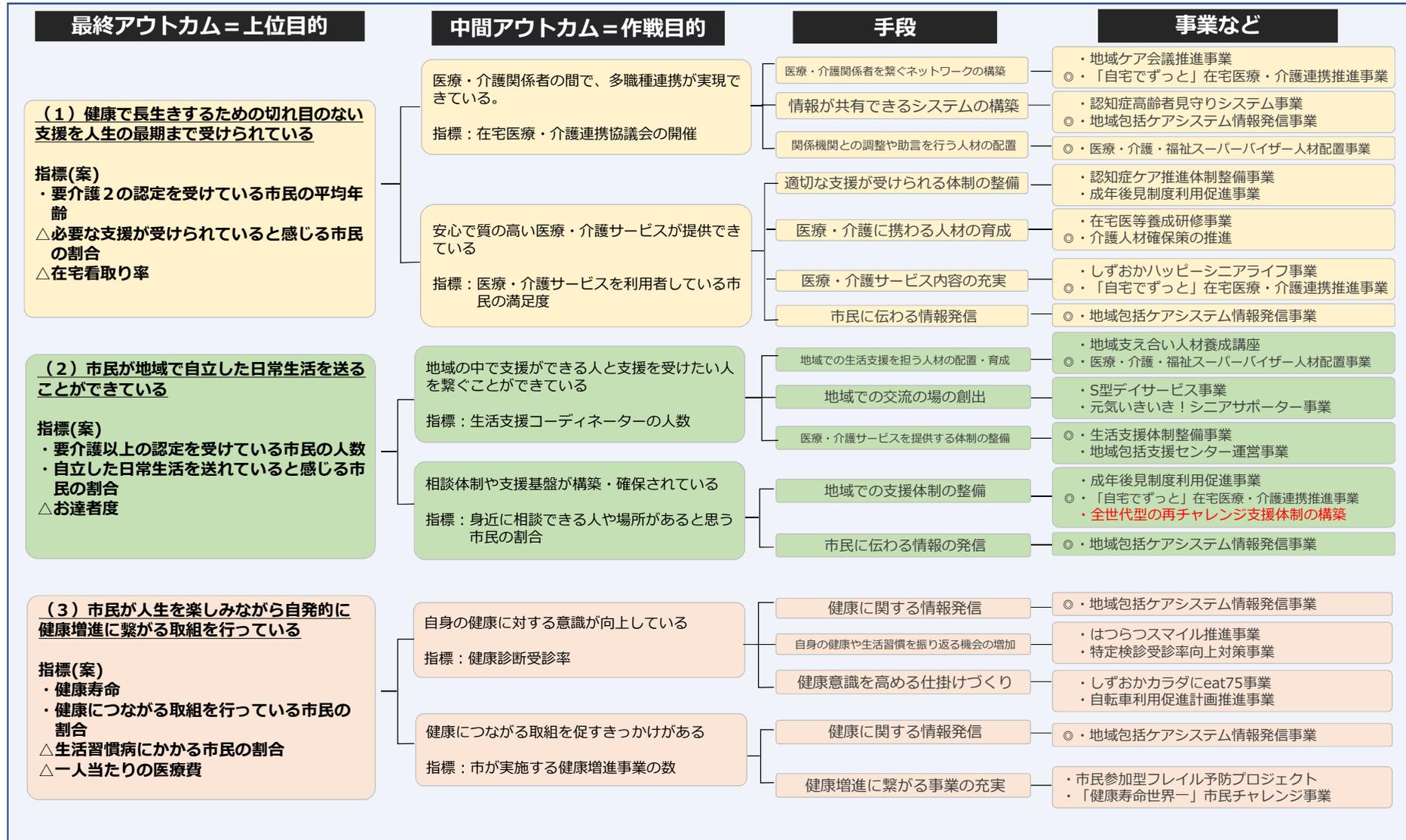
目指す姿

市民が、健康で人生を楽しむことができ、住み慣れた地域で、自分らしく暮らすことができている

関連するSDGsゴール及びターゲット



政策・施策体系



(仮) 7つの柱 政策・施策体系イメージ (安全・安心のまちの推進)

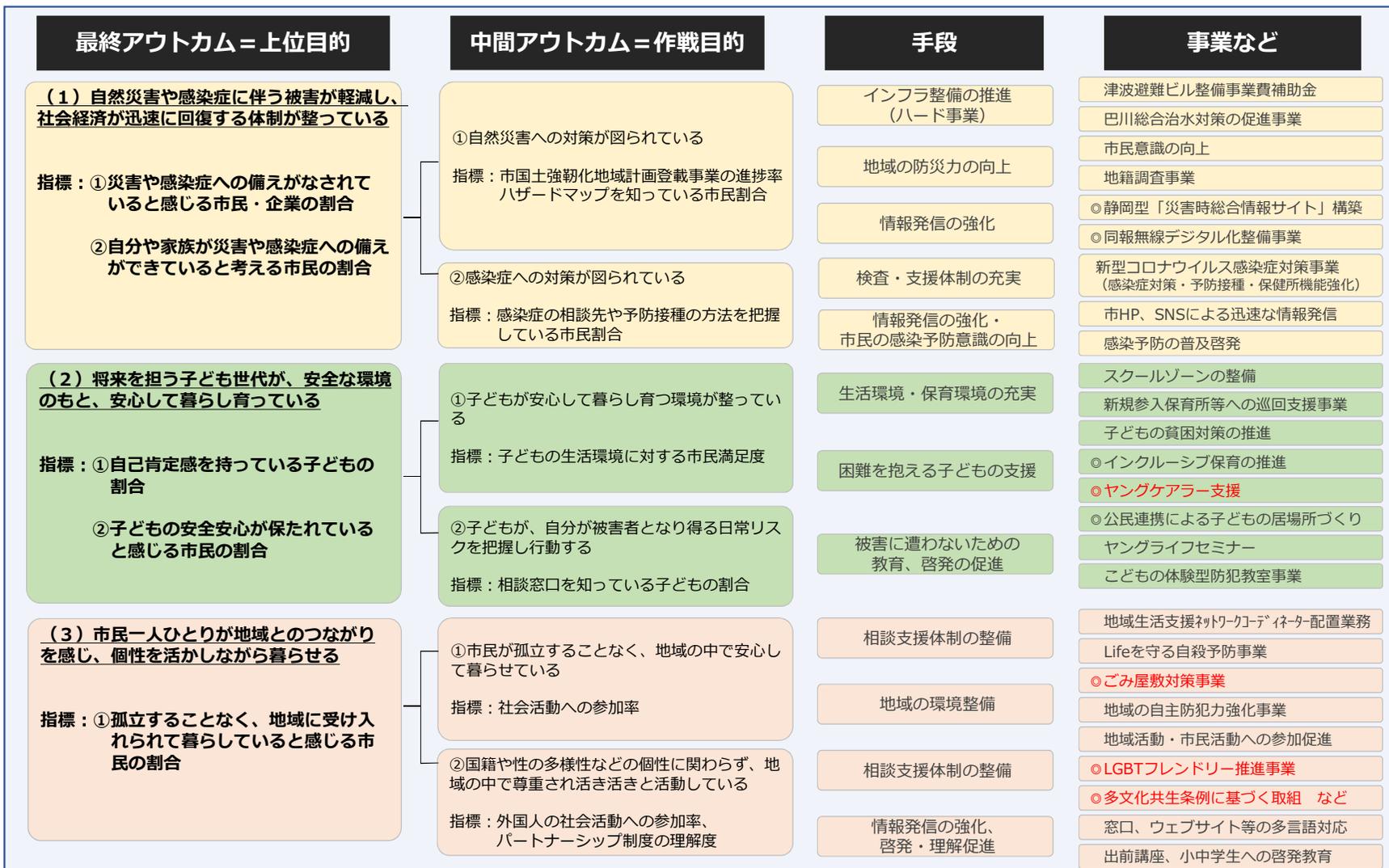
目指す姿

市民の生命、財産、暮らしの安全性が保たれ、一人ひとりが将来にわたり安心感をもって生活することができる

関連するSDGsゴール及びターゲット



政策・施策体系



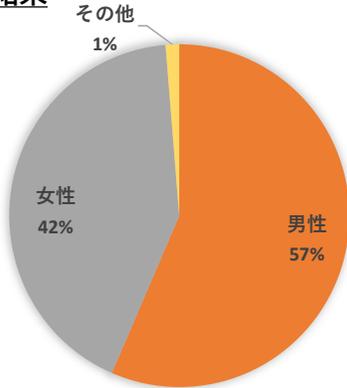
1. パブリックコメント実施概要

- 実施期間 令和4年3月1日(火)から令和4年3月31日(木)
- 周知方法 企画課窓口・各区役所市政情報コーナー
各生涯学習センター、生涯学習交流館、図書館への配架、
企画課HP、報道機関に情報提供等
- 提出方法 郵送、FAX、持参、電子申請

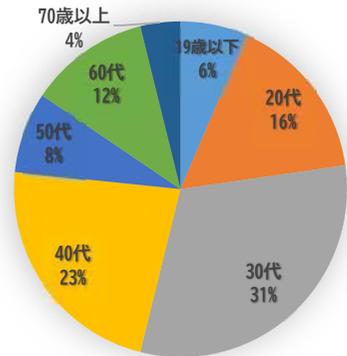
2. パブリックコメント実施結果

○意見用紙提出人数 154人
(うち理由等の記載件数 306件)

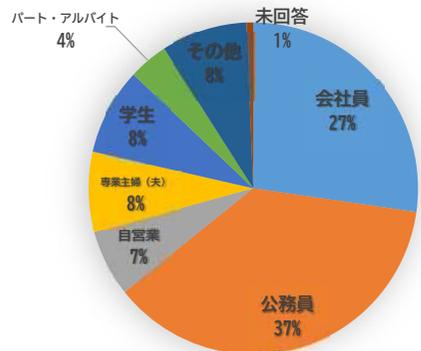
性別 (人)	
男性	87
女性	65
その他	2
合計	154



年齢 (人)	
19歳以下	10
20代	25
30代	48
40代	35
50代	12
60代	18
70歳以上	6
合計	154



職業 (人)	
会社員	42
公務員	57
自営業	10
専業主婦(夫)	12
学生	13
パート・アルバイト	6
その他	13
未回答	1
合計	154



3. 意見等に対する市の考え方

今回のパブリックコメントは、3次総の取組や、4次総の骨子案についての意見を聴取したものであるため、現時点で意見を反映する、反映しないといった整理はせず、全て今後の策定作業の参考意見として取り扱う。
なお、令和4年8月に予定している2回目のパブリックコメントでは、より具体的な内容を示し、改めて市民意見を聴取する。個別の意見要旨は資料3-2のとおり。

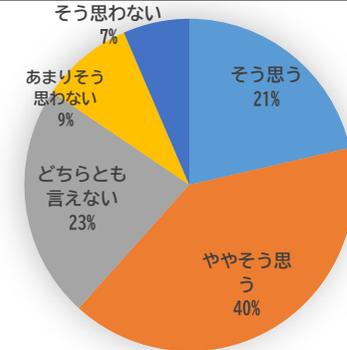
4. 3次総のまちづくりに対するご意見

Q1 第3次総合計画期間(平成27~令和4年度)を振り返ってまちづくりの取組は十分に実現されていると思いますか。

【概要】

「そう思う」+「ややそう思う」が61%、「そう思わない」+「あまりそう思わない」が16%となった。
意見としては、観光や子育て支援、歴史、社会基盤整備に対するものが多く、特に観光については「駿府城公園周辺の取組」、子育て支援については「待機児童ゼロ達成や学校教育での学校図書館・情報教育の施策」について、取組の効果が実感できるという声が多かった。一方で、人口減少対策については「静岡市に住みたいと思わせる長期的かつ画期的な取組が見当たらない」など、課題として捉えている市民の割合が多く、4次総での一層の取組強化を求める意見が見られた。
また、今回のパブリックコメントで取組を初めて知った、認知度が低いといった意見も見られ、さらなる情報発信力の強化が必要である。

回答 (人)	
そう思う	33
ややそう思う	62
どちらとも言えない	35
あまりそう思わない	14
そう思わない	10
合計	154



【「そう思う」「ややそう思う」の主な意見】

- ・駿府城公園周辺の様々な取組により、雰囲気よくなった。
- ・市外から遊びに来た友人を案内できる、静岡らしい箇所が増えた。
- ・子育て分野での待機児童ゼロ達成や学校教育での学校図書館・情報教育の施策の進展に見るべきものがある。
- ・静岡市中心部の横断歩道の整備やデッキテラスの設営など、人の動きに合わせた街づくりが感じられる。
- ・5大構想を積極的に推進していることが、イベントやニュース等を通じて感じることができた。
- ・昔はさほど歴史に興味はなかったが、行政の様々な取組によって、故郷の歴史的な重要性に気づき、故郷への愛着が増した。

【「どちらとも言えない」「そう思わない」「あまりそう思わない」の主な意見】

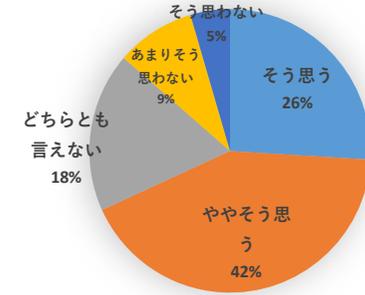
- ・人口70万人維持の達成を目標としていたが、達成できなかった点から十分な成果を出せたとはいえない。
- ・静岡市に住みたいと思わせる、長期的かつ画期的な取組が見当たらない。
- ・狭小道路整備や自転車通行レーンの未設置等、人が安全に暮らせる道路の整備が遅れている。
- ・道路、交通への投資が非常に少なく、特に市内南北方向への移動が改善されていない。
- ・多くの建物が新しくなり、きれいな街並みにはなっているが、「集客力」があるものになっているかは疑問。
- ・待機児童ゼロと謳っているが、実際には子供を預けられず仕事に復帰できなかった人が多数いる。望む人すべてが仕事と育児の両立をできてこそ、本当の女性の社会進出が実現するのではないと思う。

5. 4次総基本構想・基本計画に対するご意見

Q2 第4次総合計画の基本構想・基本計画骨子案の方向性は、共感できるものになっていますか。

【概要】
 「そう思う」+「ややそう思う」が68%、「そう思わない」+「あまりそう思わない」が14%となった。
 意見としては、基本構想や7つの柱に対するものが多く、「静岡らしさを活かす構想に共感できる」「静岡市特有の構想が『(仮)7つの柱』に盛り込まれている」など、目指す方向に共感できるという声が多かった。
 一方で、人口減少対策や子育て支援の更なる拡充を求める意見が見られた。
 また、文章表現をやさしくし、子どもから高齢者まですべての市民の心に届くようにした方がよいという意見もあり、わかりやすい計画となるよう策定作業を進める必要がある。

回答(人)	
そう思う	40
ややそう思う	65
どちらとも言えない	28
あまりそう思わない	14
そう思わない	7
合計	154



【理由等に記載のあった主な意見】

主な項目	「そう思う」「ややそう思う」		「どちらとも言えない」「そう思わない」「あまりそう思わない」		意見への対応(回答案)
	件数	主な意見	件数	主な意見	
基本構想	22	<ul style="list-style-type: none"> 恵まれた都市環境を有すること、その「静岡らしさ」を活かす構想に共感できる。 静岡の魅力が強調されて分かりやすいと思う。 	13	<ul style="list-style-type: none"> 魅力を活かした方向性に欠けており、活力ある地域にする想像力に欠けている。 今住んでいる市民はこれでよいが、これから生きていく世代には物足りない。 	4次総の内容について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。
人口減少	5	<ul style="list-style-type: none"> 大都市を目指すのではなく、避けられない人口減少に対し、静岡の持つ強みを生かしながら、移住人口増加を目指すことに共感できる。 人口70万人維持を削除するのは仕方ないと思うが、人口の維持となるような施策を打ち出してもらいたい。 	7	<ul style="list-style-type: none"> 若者の流出は、市内に魅力的な働き口が少ないことが原因と考えるが、新しい産業の創出や誘致などの施策が目立たない。 人口目標をなくしたことにより明確な数値目標がなくなった。 人口に関して70万人維持を目標とし続けてほしい。それを目指すためによりポジティブな施策の数々が出てくると思う。 	4次総においては、定住人口だけでなく、交流人口、関係人口も含めた人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにするための取組を推進していきます。 また、適切な分析、評価ができるよう、新たな指標を設定していきます。
(仮)7つの柱	25	<ul style="list-style-type: none"> 静岡市特有の構想が『7つの柱』に盛り込まれている。(全体) 清水港のまわりが発展することを楽しみにしている。(海洋) ずっとお勉強ができる場所があるといい。(まなび) 市街地とオクシズが支え合う枠組み作りに期待する。(森林) 文化芸術を活かしたまちづくりで、静岡らしさを表現している。(まちは劇場) 健康寿命の増進は大切なことだと思う。(健康長寿) 感染症は何年ごとに発生するので、継続的な対策が必要である。(安全安心) 	6	<ul style="list-style-type: none"> 7つの柱とその説明文に「子育て」の文字が1つもないことが気になる。 7つの柱に掲げたものは、3次総とあまり変わらず、「『世界に輝く静岡』の実現」となるような印象を受けない。 	いただいたご意見を基に、本市ならではの地域資源を活かした特徴的な取組を4次総に位置付けていきます。
子育て支援	0		7	<ul style="list-style-type: none"> 待機児童ゼロは3次総の成果であり、それを維持しつつ、そこから何をプラスするのか示してほしい。 人口減が著しい静岡市が、その増加に繋がる若者、子育て世代に訴える柱がないことに疑問を感じる。 	子育て支援については、分野別の政策・施策(子ども・教育分野)においても検討を進めており、次回のパブリックコメントで改めて取組をお示しします。
その他	—	<ul style="list-style-type: none"> 国際拠点港湾である清水港「海洋文化の地域づくり」はとても楽しみ。スポーツ施設(サッカー場)がJR清水駅近くに来ることを期待する。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 新スタジアム建設が計画に盛り込まれていないことは、不満である。 持続可能なまちづくり、そのためのアセットマネジメントであるならば、大きな施設整備は取りやめるべき。 	4次総の内容について、多くの市民の皆さんに共感いただけるよう、引き続き検討を進めていきます。

6. 4次総策定に向けたアイデア及び自由記載

Q3 その他、第4次総合計画に期待することや、やってみたい取組、ご意見などをご自由にお書きください。

【概要】
 Q2で挙げた主な項目のほか、個別施策に関するアイデアなど数多くのご意見をいただいた。
 (詳細は別紙のとおり)

今後の策定作業の参考意見として取り扱う主な意見要旨

意見要旨
計画全体
市内を移動していて、具体的に見える形でかなり実現されていると思ったため。「やや」としたのは、正直、箱物が多く、「じゃあ、本当に数字や結果として表れているのか？」が非常に不明なため。
自身の生活圏で特に以下の施策に恩恵を感じているため。 ・家康公四百年祭・JR草薙駅リニューアル・日本平夢テラスオープン・日本平久能山スマートIC開通・桜橋の架け替え工事開始・あさはた緑地交流広場オープン
大学生目線では、新幹線通学への援助や待機児童ゼロの達成などの取組によって、静岡市民が生活しやすい環境が整いつつあると思うから。
駿府城公園周辺の様々な取組により、雰囲気はよくなったと思います。 田舎に住んでいるので、高齢者には公共交通機関など、ストレスなく移動できるようにしてほしいです。
特に観光・交流の取組は、静岡、清水ともに形に見えるものができていると感じた。 中部5市2町の取組は、あまり何かやっているイメージがない。
市外から遊びに来た友人を、静岡らしいところに案内できる箇所が増えた。スマートICなど利便性が向上している。ただ、ややそう思うを選んだ理由は、ハコモノを作り見栄えをよくするのは結構だが、もう少し生活の安心安全を支えるインフラへの投資が必要と感じたため。
認定こども園化、大谷ICなど、自身の生活にかかわることや身近に見える部分で動きがあったことはわかるが、それによって、自分の生活において何がよくなったか（暮らしやすくなったか）という点についてはなかなか実体として感じる事ができないため。それらがなかった場合との比較ができないので当たり前かもしれませんが・・・
一定の施策効果があったと思うが、五大構想や目指す都市像、重点プロジェクトなどの計画の体系が複雑で、事業効果が分かりにくくなっていると思います。
葵区駿河区清水区がバランス良く計画されてると思うから
昨今、ハコモノ行政と批判的な報道が多いが、全国的に見ても地方自治体の財政状況が厳しい中、他都市と比較しても静岡市の財政状況は、バランスを取りながら比較的健全に経営されており、旧静岡市地区と旧清水市地区、そして中間の草薙地区にバランスよく計画され、また、市民の幸福度につながるソフト事業を中心とする「まちの賑わい」と「市民の健康」にも視点を当てた施策も実施しているため。
ここ数年で、休日の行き場所として目立つようなモノ・コトのコンテンツがとても増えた印象です。主な出来事の欄でピンとくることも多いので、まちづくりが進んだのではないのでしょうか。
第三次総合計画にそって出来ていると思うので、実現されているとは思いますが。ただ、計画自体を知らない人が多いと思います。
色々な取組をしているんだ！ということがわかりました。 聞いたことのあるものや、身に覚えのあるものもあって、市が目標とするまちづくりのための取り組みの中の1つだったんだ！と知ることができました。しかし、知ってはいても実際に体験したことのない（自分が興味がないから？そもそも需要（というより市の目指すもの）はあるのか？必要性自体に気づくには取り組みに参加しなければ得られない？きっと周知にも力を使われていると思いますが、難しく感じます。）ものばかりで（知らないものもあり）自分自身活用することができていないことに気が付きました。
静岡市が活発に動く事で活気への萌芽を感じる事があります。特に今までスポットの当たってこないおくしずへや用宗のPRは素晴らしい事だと思います。しかし、まだ課題はたくさん出てくると思いますのでその際には微力ながら協力や応援させていただければと思います。
5大構想に掲げた事柄は進めているとわかるが、重点プロジェクトの要素、10の生活・環境など、市政が市民生活へ還元されたとの印象はない。
子育て分野での待機児童ゼロや学校教育における学校図書館・情報教育の施策の進展に見るべきものがあると思います。一方で、桜が丘病院の移転や公共交通網などの不備に関する改善が見られないのは残念です。
歴史・海洋・教育文化については少しずつ取り組みが実現化しているが、今後の持続性や本当に市民にとって誇れるものになるかは4次総合計画以降に期待したい。まちは劇場については、生活の中で言葉を聞いたりロゴを見かけたりするくらいで、実際何をしているのかはほとんど知らない。全体的に施設の開設などが目立ち、市民一人ひとりが日々生活を送る中でのサービス充実などはあまり感じられない。また、世界に存在感を示すとうたうからには、広報など改善点は多く見受けられる。

人口減少対策

意見要旨
人口の社会増がみられるということで一定の成果はあるように思われるけれども、世界に輝く静岡というスローガンは浸透していないように感じる。
人口の流出が多いのが気になります。
よくやっているが、人口統計で明らかのように中山間地の人口減少に歯止めがかかっていないと感じられるため色々やっていることもわかったが、特に清水は人が減っているのだ。
人口が減っているため住みやすいとはいえない。
やるべきことについてはある程度やっていたかと思うが、それが市民（+交流人口）の利益に帰結し、市民が実感できていたかと考えると疑問が残るため。
総合計画がしっかり実現（市民が実感）していれば、ここまでの人口減にはならなかったのでは？
<ul style="list-style-type: none"> ・5ページをみると実に華やかであるが、街の魅力は上がったのでしょうか。 ・70万人キープは困難だとしても人口減少に歯止めがかかっていない。
70万人維持という目標は適切であったのか。早くから人口減少を前提とした施策に切り替える必要があったと思う。
住みづらくはなく最低限のラインはクリア出来ているが、それなら浜松市でも焼津市でも同じ。全国的に見て日本の中心部に近いというメリットを活かしきれず、静岡市に住みたいと思わせる長期的かつ画期的な取り組みが見当たらないので
人口70万人維持の達成を目標としていたが達成出来なかった点から十分な成果を出せたとは思えない。子育て支援については、受け入れ人数の増に取り組み、全国の中でも早く公立全園を認定こども園に移行したり、集中的に保育の受け皿を拡大し、4月当初の待機児童ゼロを達成した点は評価出来る。
3次総では5大構想を軸に「世界に輝く静岡」として都市間競争に生き残る都市を目指して進めてきたと認識しています。コロナ渦の影響もあると思いますが、結果として人口流出に歯止めがかかっておりません。生き残る都市としての魅力に欠けるのだと思います。また官民の連携、民意の反映も十分にされているとは思えません。3次総では「海洋文化の拠点づくり」をあげていますが、来月（2022年4月）には静岡の松坂屋に都市型海洋ミュージアムという類似の施設がオープンします。田辺市長は「むしろ相乗効果が期待される」と仰っていましたが、静岡を盛り上げようと民間で取り組んだその数年後に類似の施設を官が整備するというのは、民間のやる気を削ぐことになると思います。コロナ渦明けでそのまま再開ではなく計画の見直しが必要だと思います。
最も謳われ、期待された70万都市維持が達成できず、その理由について主体的な反省がなく、世の中・時流に責任転嫁していると感じます。第4次でも意見を述べますが、人口減少、少子化について、社人研以外に依拠しているデータ（出来たら静岡市自身が調べたもの）はあるのでしょうか。また、どのような手立てをとったにもかかわらず、人口減少は抑えられなかったという分析と反省が見当たらないように思います。静岡市が努力されていると思いますので、是非その努力が無にならない分析をお願いします。尚、その際できるだけ静岡市役所の職員自身による分析をお願いします。
人が減っているように感じます。コロナ渦で外出が少なくなっていますが、それ以前から街がさみしく、閑散としています。特に静鉄新清水駅の付近は街灯も少なくとても暗いので、夕方～夜は歩くのが怖い時があります。
Uターンして働く場所が少ない。静岡市の経済は不安定だから。

意見要旨

5大構想

5大構想に基づく施策がまんべんなく実施されてきていることは理解できるが、まちは劇場やホリノテラス等は（感覚的に）定着していると言えず見直しや改善の余地があると思うから。

歴史文化の地域づくり、「まちは劇場」の推進など、5大構想を持って推進してくれた。ただ、まだ「まちは劇場」など認知度が低いような気もするため

少子高齢化や都市部への人口集中が進むなかであって、静岡市では歴史文化、海洋文化、教育文化の3つの拠点づくり、生活の質を高める仕組みとしての健康長寿のまち、街は劇場の取り組みを進めており、それぞれの項目で一定の成果が表れていると思います。普段生活してる中では、そうしたまちづくりを意識しているわけではありませんが、穏やかな土地柄もあってなんとなく暮らしやすいまちだあなと感じることが出来ます。

しかし、全国の政令指定都市の中であって人口増減率は下位に位置するという現実をみると、市民の欲している何かはまだまだ足りていないのではないかと思ってしまう。特に穏やかさより刺激を求めがちな若い人にとっては、モノや情報、学ぶ場や働く場、チャレンジする場所は大都市圏に行かないとに得られないと感じているのかもしれない。

人口減少への対応は静岡市だけではなく静岡県全体でも顕在化している大きな課題ですが、静岡県のど真ん中で政治経済文化の中心である静岡市としては、特にこの問題を深刻に受け止めて、新しい総合計画に積極的なまちづくりをの姿を示していかなくてはならないと思います。

5大構想については、積極的に推進していることがイベントやニュース等を通して感じる事ができた。

歴史文化の拠点づくり

私自身、昔はさほど歴史に興味はありませんでしたが、行政の様々な取り組みによって、自分の故郷の歴史的な重要性に気づき、故郷への愛着が増したことから、取り組みの良さを感じました。

一方、歴史に偏りすぎて、目新しさや、体験して楽しむ面白さに欠けます。山や海などの自然を生かしたレクリエーション施設や科学施設などにも注力して、若い世代が楽しめるまちづくりをしてほしいです。

取り組みとしては十分だと思うが、近い人間の意見に歴史の発掘・展示は駿府「城」がない以上、観光業の集客として殆ど意味を成さず、予算の無駄というのを耳にしたことがある。公的機関として歴史文化の保存は責務であるとしても、5大構想の1つとするには潜在的なひんしゅくもあるのではないか。個人的な意見としては「子育てするなら静岡」「田舎に移住するなら静岡」という取り組みを行い県内外に大々的にアピールしてみるのはどうかと考える。

静岡が誇る歴史の拠点である、駿府城で、大道芸を開催するなど、歴史と文化の発信点となっているから歴史や港を活かしたまちづくりは進められていると感じる

「歴史文化のまち」ということに関して、箱物の整備はとても頑張ってくれていると感じる。日本平テラスなど、静岡市の歴史に関するスポットを構築するのは良いと思う。一方で、市民が歴史をあまり知っていないと感じるため、浸透させるような施策が必要だと感じる。「健康長寿のまち」については、なかなか市が主導しているというイメージはあまりなかった。

家康400年祭りや、坤櫓など駿府城公園の整備で大河ドラマ館設立へ向け大きな布石になったと思う。「どうする家康」の放送と大河ドラマ館オープンでさらに盛り上がると思う。

駿府城公園を例にとれば、歴史文化の拠点となったとはとても思えない。イベント以外の駿府城公園を訪れても砂地の広場が大半を占めていた。駿府城公園に桜はあるが、弘前のように桜の名所とはなっていない。

「健康長寿のまち」の推進

少子高齢化問題からも、まずは健康である事は大切であると思います。コロナについてもスポーツや生活習慣などここの免疫力を高める事も繋がると考えます。

意見要旨

安全・安心

新型コロナのこともあり、計画通りに行かなかったことは多いと思います。また、この8年の間に世の中は大きく変化しており、「海洋・地球総合ミュージアム」のように見直すべき計画もあったのではないかと思います。

世界に輝く静岡＝オンリーワンの資源を活かし最優先に進める政策、ということであれば、3つの拠点づくりではなく、駿府城に関すること一点集中でもよいのではないのでしょうか。あれもこれもでは静岡のカラーをより強く発信できない上、来年度は過去最高額の予算を立てたことに不安を感じます。

私は障害のある子どもを2人育てている母親です。社会的支援が足りないために自身の健康を維持できず助けを求めても、市にお金がないとの理由で改善が進みません。お金の使い方、特に障害のある人に対しては生産性がないと取り残されていると感じます。

魅力あるまちとは、みんなが安心して暮らせるまちだと私は思います。私のような家庭は少ないと思いますが、その私たちが安心して暮らせるまちは多くの方が安心して暮らせるまちづくりに繋がります。

市民生活の健康・防災・共生、こちらにもっと力を入れて欲しいと思っています。

子育てしているものの肌感覚として、共生都市や移住促進、まちは劇場などの効果を感じませんでした。防災にも不安を感じます。

子育て支援

中高年齢者向けの施設などは魅力的なものが増えた。こども向けの魅力は対象者が限定的だと感じる。若年層向けのまちづくりの魅力がないと感じる。人口の維持をするための課題は若年層にあると思うが、対応策はあまり感じられない。

どの分野（重点プロジェクト）においても、取り組みがなされているから。

どの分野・事業においても、小さな子供が楽しめる工夫・取組があったのか気になる。

子育ての項目でここ数年待機児童0としか書かれていない。

待機児童0といえどもまだまだ保育園は入るのが大変。隠れ待機児童は結構いる。

市役所に相談したところ、子を確実に保育園に預けるために0歳4月入園が固いと言われた。我が子は0歳4月はまだ生後5か月。離乳食も始まっていない状況で預かるのは辛い。でもここを逃すと次保育園に入れることができるのかわからない。

結局0歳4月は見送った。

現代では母親も働かないと十分な教育を受けさせることが難しい。またそれに子を複数持つことを考えると躊躇してしまう。

保育料の所得制限の話も出ているが子を産んで仕事も頑張りたいという気持ちが削がれてしまう。

静岡市が好きですと暮らしていきたいからこそ人口流出は悲しいし繁栄して欲しい、そして子育て世帯に優しいまちであってほしい。

人口70万人維持の達成を目標としていたが達成出来なかった点から十分な成果を出せたとは思えない。

子育て支援については、受け入れ人数の増に取り組み、全国の中でも早く公立全園を認定こども園に移行したり、集中的に保育の受け皿を拡大し、4月当初の待機児童ゼロを達成した点は評価出来る。

他都市に比べ、子育てがしやすいとは感じていません。

「待機児童0」と謳っているが、実際には子どもを預けられず仕事に復帰できなかった人が多数いる。望む人すべてが仕事と育児の両立をできてこそ、本当の女性の社会進出が実現するのではないかと思います。

インフラ等

町の中を歩くと、環境整備が整っているように思える。環境や人に配慮した取組が十分行われていると思います。

最近静岡市内を色々歩いてみたが歩道も概ね整備されていて、歩きやすかった。ここ20年以上移動はクルマ中心で目的地だけしか気にならなかったが以前と比べると随分歩行者、自転車等にも気を配っていると感じました。地域ごと名所の宣伝、案内も目につき公園等も多くあり良く管理されている。

道路・交通への投資が非常に少なく、特に市内南北方向への移動が改善されていない

静岡市中心部の横断歩道の整備や、デッキテラスの設営など、人の動きに合わせた街づくりが感じられる一方で、大谷街道などの狭小道路や自転車通行レーンの未設置等、人が安全に暮らせる道路の整備が遅れているため。

箱物に予算はつきやすいが、デジタル化や通信網の整備が遅れ発想の転換が必要と考えます。

交通速度（特に市内南北方向）が改善していない

車道と歩道の区別がちゃんとしていない。狭い道が多いので危険を感じる。

施設整備

意見要旨
<p>駅のリニューアルや日本平夢テラスオープンは、多くの人にとって嬉しいものなのでとても良いと思う。</p>
<p>静岡市が「歴史文化のまち」と「健康長寿のまち」を目指す都市像として掲げていることは大いに共感しますが、拠点づくり(静岡市歴史博物館、大河ドラマ館、かけこまち七間町)が目的になっているように感じます。単なる箱モノに終わらず、たとえば歴史博物館なら陳列内容を定期的に入れ替えるなど、何度も訪れてもらえるような工夫を継続してほしいと思います。</p>
<p>箱モノ事業ばかりが目を引き、3次総前半に多い改修・統合・リニューアルはまだ理解できるとして、後半の歴史施設、海洋ミュージアムは、「あるもの探し」というよりも「無いものねだり」にしか見えない。人口減少に拍車がかかる中で、無理して作った箱モノが更に財政をひっ迫し、負のスパイラルになる未来が容易に想像できる。インフラをはじめ、本当に市民生活に資する事業にお金を割くべき。</p>
<p>短期的にも長期的にも赤字の箱物をここ数年でも複数つくっており、街の魅力づくりへの投資だとしても、もう少しリターンのあるものにしないと、ただ箱物をつくって成果としたいだけ・一部の企業のための誘致のように感じます。動員予定数等も、都内の施設などと比較しても非常に多く現実的な数字でないと感じております。</p>
<p>清水に水族館を建てるのはやめてください。何億もかけて集客が見込めない施設に税金をかけるより、もっとわかりやすく市民に還元してください。</p>
<p>多くの建物が新しくなり、綺麗な街並みにはなっているが「集客力」があるものになっているかは疑問に感じる。例えば駅が新しくなったが、他県の多くの駅にあるような商業施設がなく、せっかく作ったのにただ通過するだけのものになってしまっている。</p>
<p>新型コロナのこともあり、計画通りに行かなかったことは多いと思います。また、この8年の間に世の中は大きく変化しており、「海洋・地球総合ミュージアム」のように見直すべき計画もあったのではないかと思います。世界に輝く静岡＝オンリーワンの資源を活かし最優先に進める政策、ということであれば、3つの拠点づくりではなく、駿府城に関すること一点集中でもよいのではないのでしょうか。あれもこれもでは静岡のカラーをより強く発信できない上、来年度は過去最高額の予算を立てたことに不安を感じます。私は障害のある子どもを2人育てている母親です。社会的支援が足りないために自身の健康を維持できず助けを求めても、市にお金がないとの理由で改善が進みません。お金の使い方、特に障害のある人に対しては生産性がないと取り残されていると感じます。魅力あるまちとは、みんなが安心して暮らせるまちだと私は思います。私のような家庭は少ないと思いますが、その私たちが安心して暮らせるまちは多くの人々が安心して暮らせるまちづくりに繋がります。市民生活の健康・防災・共生、こちらにもっと力を入れて欲しいと思っています。子育てしているものの肌感覚として、共生都市や移住促進、まちは劇場などの効果を感じませんでした。防災にも不安を感じます。</p>
<p>三次総合計画の冊子にある「ないものねだりからあるものねだりへ」という市長のお言葉には大変共感を得ました。狭い土地と避けられない人口減少の中、今あるものを有効に活用していくことは有効だと思います。一方で「令和4年度には、拠点の核となる「静岡市歴史博物館」のオープンや・・・」「(仮)海洋・地球総合ミュージアムの整備事業を令和4年度再開し・・・」とありますが、静岡市歴史博物館は、今ある駿府城の見学施設を有効活用できなかったのでしょうか。歴史という観点なら、既に全国的にも著名な登呂博物館があります。海洋・地球総合ミュージアムは、東海大学と連携し、既存の海洋科学博物館をリニューアルする形で検討はできないのでしょうか。新たなハコモノの維持管理費を負担していくのは次世代です。その点をもう一度認識して頂いて、改めて「あるものねだり」の考え方を取り戻して頂きたいと思います。</p>
評価
<p>ハコモノは分かりやすく取り組んでいる実績にカウントしやすいが、ソフト面での取り組みや成果が判断しづらいため。</p>
<p>A評価が多い。経年的にA評価の割合が高くなっている。郊外の道で、でこぼこしているところがあり、高齢者がつまづき転倒しやすいところがあります。</p>
<p>拠点の整備など、目立つ事業はいくつかあると思いますが、それがまちにとって、どのような成果につながったのか、が見えづらい印象です。</p>
<p>政策の認知度が高まっていない。「世界に輝く」は道半ばであり、その筋道も見えない</p>
<p>個々の事業では計画に対する進捗が順調とみなせるものもあると思うが、計画全体の成果指標で見ると、達成しているとは言い難いため。</p>
<p>5ページ上部の解説にある施設の開設や建設はあくまで手段であり、その他の事業もそれが実施されたかどうかは本来の目的ではないはず。それらによって何が実現されたかが問題と考えます。本来目指すべき、あるべき姿を測る指標が提示されておらず、取り組みの実現度がそもそも資料からは評価できないと思います。</p>

意見要旨

その他
ミニ四駆が静岡市で作られていることがうれしいです。
市職員が汗を流し取り組んでいると感じるが首都圏から見て、静岡市のイメージが薄い。足元を固めていないため、流出が増加している。
子供給付金10万 年収960万円以下が93% 年収が減少している。
現状をよく理解してないため、実現されているかわからない。
コロナのせいで、なかなか楽しい生活が送れなかった。
この8年間でバスが減り、飲食店がなくなるなど、生活が不便な感じます。
清水があまりよくなっているとは感じないから
新型コロナの影響もあり、当初のスケジュールどおり進んでいない事業が散見されているため
「世界に輝く静岡の実現」には程遠いと感じるため。
・新スタジアムの調査費用100万円には本当にガッカリした。

今後の策定作業の参考意見として取り扱う主な意見要旨

意見の概要
計画全体
静岡市が一定の経済力を有しながら固有の歴史や文化、自然と調和した、人々が人生を謳歌できる持続可能な都市を目指していることが大いに評価できるから。
静岡市が恵まれた都市環境を有すること、その「静岡らしさ」を活かす構想に共感できる。
静岡市とその住民の過ごしやすさと満足度を上げる努力をしようとする。長期、短期を通して構想を作ること自体が素晴らしいと思う。
静岡の魅力が強調されてわかりやすいと思うから。
今後人口の減少・少子高齢化は避けようがないため、それに対応して計画されている。また、新型コロナウイルス感染症により社会の考え方が大きく変化したため、それに対応した計画となっている。7つの柱も具体的に明記されており、この計画に沿って第4次総合計画を実現できれば魅力ある静岡市になるのではないかと思います。
市民のニーズに沿った案であると通読して感じました。また、現代的な問題（地球温暖化や新型コロナウイルス等）に対しても対応を示していることで単なる夢物語ではなく起こり得る身近な課題を取り上げられていたので、より現実的に未来の静岡のビジョンを考えることができました。
概ね共感できますが、令和5年4月からスタートする計画として、まだ1年検討時期があると思うので、現在起きているウクライナ情勢をはじめとした国際情勢についても反映したほうが良いと思いました。
拠点のまちづくりが4次総に継承されるとともに、それを支える「安全・安心のまち」の推進が新たな柱として加わっていること。時代の潮流に対応し、新たな魅力あるまちづくりに期待するとともに、あくまで主役は市民であることを認識しながら、住み続けられる「静岡市」を実現していただきたい。
目指す都市像に、「まちが輝く」、「市民が輝く」を打ち出したことは、これまで『輝く』の対象が曖昧であった「まちづくりの目標『世界に輝く静岡』」を、分かり易くイメージすることができて大変良いと思うが、以下のとおり気になる表現があったので記載しておく。
①P6の「1策定の趣旨」中、「我が国の人口減少、少子高齢化は、深刻さを増し…」という表現があるが、P7に記載のとおり、地域活力の低下や経済活動の停滞などに影響を及ぼすのであって、人口減少、少子高齢化=深刻ではないので、『進展』程度の表現でよいと考える。
②P6の「2まちづくりの目標」中、4段落目に、「都市環境を有し、新しい時代…」とあるが、後段のまちづくりの目標に繋げるために、「地勢的にも日本の都市の縮図のようなまちであり、」を加筆して方が良いと考える。
③P7の「⑥SDGsの推進」中にP9にも記載はあるが、他都市との差別化を図る大きな取組であり、公的機関が認証したものであるため、「SDGs未来都市」及び「アジアで唯一のSDGsハブ都市」を記載した方が良いと考える。
④P9の「横断的視点」中、「③脱炭素社会の実現」とあるが、今後目指す社会の姿は、脱炭素(CO2排出ゼロ)と経済成長を両立できる社会=グリーン社会であると考えてるので、「③脱炭素社会の実現」を「③グリーン社会の実現」に変更した方が良いと考える。
環境に配慮した施設や、静岡市らしさ(地域らしさ)を発信出来ると内容だとより素晴らしいと思います。未来を担う学生の意見をもっと反映させたり、考えてもらう機会を増やすこと(この意見募集を沢山の学生にやらせもらう等)などの工夫があると良いと思います。興味をもってもらえるようにするとこれからは繋がってくるのではないのでしょうか。
1. 基本構想について
基本構想の目指す静岡市の都市像はおおむね共感できますが、文章表現はもう少しやさしく平易にし、子供から高齢者まで全ての市民の心に届くようにした方がより良いのではないかと思います。自治体の総合計画はあまり市民が見たり読んだりするものではないと思いますが、是非、多くの市民に読んでもらい、共感してもらい、まちづくりに参画してもらえるような総合計画にしてほしいと思います。
そのまえに、計画の策定過程においてできるだけ多くの市民から未来の静岡市の姿についての夢や希望、意見をいただき、議論をしていただける機会をつくっていただきたいと思います。特に、小中学生、高校生、大学生などの若い人たちに参加してもらい、静岡市を一層好きになって将来は静岡市に住みまちづくりに参加したいという気持ちを持ってもらえるような仕掛けを作っていただくことを期待します。
目指すべき姿は一市民として共感できるものであるため。
様々な文化が発展して、静岡市を世界から人が集まる都市に成長させていくのは共感できます。あとは、訪れる人ではなく、住む人がこの街に誇りを感じながら、住み続けられるために、生活の基盤である働く場の創出と働きやすさ、豊かな時間の使いやすさを伴った都市にしてほしいです。

意見の概要

高齢化が進んでいる中、より自然災害への懸念が増しているため、①や②のような方針に賛成である。また、⑥や⑨等にあるように環境問題に積極的に取り組むことは、これからの静岡市民のためにもなることなので賛成である。

コロナ禍、地球環境の問題、多様性の実現、DXへの期待など、この数年で認識を新たにされた方がより良い暮らし方ができると感じることが多くなりました。第4次総合計画はそれまでを引継ぎつつアップデートされていると思いますが、もう少し時代に沿った思考や展開方法に期待できるものであって欲しいと思います。

具体的には「7つの柱」の中で、「安心安全のまち」は少子高齢化に伴って新たに生じる課題（通学路の見守りの担い手、学校統合による通学範囲の広域化に対応した防災意識の醸成、子育て世代と地域のシニア世代との繋がり創出の機会創出、）も視野に入れて頂けると嬉しいです。

また「海洋文化の地域づくり」においては、駿河湾の環境問題を”研究”に含めず、独立したテーマの中で取り扱うことで生物多様性や水産産業のより良い形での継承・海の食文化の保護にもっと意識を向けていただきたいです。海洋環境問題はグローバルな視点では地球温暖化やプラスチックゴミの問題が前面に出ていますが、静岡市の海においては”経済と環境の両立”という地域固有の課題もあろうかと思えます。「海洋文化」の中でも「環境」についてもはっきりと文言として記載しておくべきだと思えます。環境面でのDXの活用を実現し、駿河湾に面した市として後世に多彩で正確なデータを引き継げる次世代型の環境への取り組みに期待します。

「まなびの文化の地域づくり」については「まなび」が曖昧でわかりにくい。「誰もが」というのも開かれた良い印象を抱きがちですが、教育機関があることや若者から子育て世代が多く利用しているアート&スポーツヒロバの実績や静岡市の人口データに対する施策であることを併せて考えると「まなび合う活力にあふれる文化の創造」などの表現の方が適切ではないでしょうか。いかようにも意味合いを取れるような曖昧な表現で願望や意図を含まず、実情に基づいたテーマ設定が望ましいと思います。

①世界から注目されることが優先であるようにとらえます

「世界から注目されるまち」と「市民一人ひとりが人生を謳歌できるまち」の優先順位を逆にしてもらいたい。関係人口・交流人口を増やすことの重要性はわかるが、市民一人ひとりが人生を謳歌してこそ、世界から注目されるまちづくりへの活力や主体性が生まれると考えるからです。外（世界）ではなく中（市民）を優先させてほしいです。また、そもそも「なぜ世界を呼び込む必要があるのか」という点が、基本構想一まちづくりの目標から目指す都市像の中でのロジックの繋がりが分かりにくいです。また、これまでの取り組みでもどれほど世界からの注目や流入があったのかもデータで結果検証してほしいです。

②歴史文化で「家康と今川推し」の理由がわかりません

徳川と今川を中心とした歴史資源とありますが、この両名は海外から注目や興味があるのでしょうか？外国人にとって日本の観光地ランキングは、広島・奈良・京都などの寺や歴史的遺物であって、この両名で「世界中」から人を集めることができるのか疑問です。そもそも駿府城公園はお城もなにもない、私もよく散歩に行きますが、外国人は見たことがありません。集客できるのは、よくて、日本ではないでしょうか。

③「まちは劇場」のタイトルからもたらされる施策のイメージがしにくいです

文化を通じた心の豊かさの醸成は理解できますが、他の施策に比べて、実施される施策のイメージが持てません。

④「子育て」施策が、7つの柱にないことが残念です

静岡市でのびのび子育てができる環境が想像できません。「まなぶよさ」は草薙近隣の展開で理解できますが、その前段階の、「産み育てる段階」での施策を入れてほしかったです。私も働いていてわかるのですが、未だ、日本の社会は男性中心の役割認識で固定されており、女性がのびのびと人生を謳歌できる体制にはないと感じます。「健康長寿」のまちづくりもいいのですが、高齢者も大事にするなら、若者世代も大事にする施策を入れてほしいです。

環境問題や人口減少、少子高齢化に加え感染症や戦争といったまさに時代の変わり目にある今、新たな価値観が多く生まれそれが当たり前になりつつある。「地域資源を活かし市民一人ひとりが幸せに満ちた人生を送る」という基本構想や基本計画にある時代の潮流9項目も共感できる内容であった。ただ「まちの魅力の向上」「市民の生活の質の向上」を達成するための取組としての7つの柱は特に「市民の生活の質の向上」部分で違和感を感じた。多様な価値観が生まれた中で演劇や音楽といった文化に少し限定的ではないか（地域の強みを活かした心の豊かさの醸成方法は他にもあると感じる）、また日々の生活に一番大きな影響を与える気候変動や災害から感染症、社会問題まで全てを「安全・安心のまちの推進」1項目でまとめるのは希薄だと感じた。SDGs、DX、脱炭素社会についても今後社会の主流となる中で横断的視点といった何となく曖昧な表記だと思った。

意見の概要

・目指す都市像が長いように感じます。市民が見てこんなまちになるんだ、と一目でわかる書き方が良いのではないのでしょうか。様々な部署からの意見をなんとか集約した苦心の結果なのが見て取れますが、「世界から注目され、人々が集まるまち」「自分らしく暮らせるまち」くらい短くて良いと思います。

・まなびの文化の地域づくりを推進しても、そこで学んだ学生が静岡市に定住しないと効果が薄いと考えます。もっと若者に焦点を当てて、若者に選ばれるまちを目指す施策を展開してください。

・7つの柱とその説明文に「子育て」の文字が一つもないことが気になります。高齢世代がいくら過ごしやすくても、子育て世代がいけないのでは、まちに活気が生まれえないのではないのでしょうか。子育て世代への支援を厚くし、子育て世代に選ばれるまちを目指してください。

・「ごみ」「廃棄物」についての記載が一つもありません。コロナ禍の中で、ごみ収集に注目が集まりました。市が持つ自治事務の中で、最も基本的なものが「適正な廃棄物処理」だと思います。施設の老朽化対策として、廃棄物処理施設は最優先すべきです。

横断的視点（例えば脱炭素やDXの推進）と標榜している事柄が、7つの柱とどのように関わり、進めるのか見えない。

この先、静岡市が住みやすいまちで居続けるために、どんな事業をいつまでにやるのかといった具体的なものをあわせて提示していないため、これだけを見てイメージしにくい

成熟と持続可能な社会を目指す理念には共感できます。そのためには身近な地域での人と人とのつながりやそれを支えるインフラやシステムが必要だと思います。⑥公共施設のアセットマネジメントが、逆の状況をもたらすのではないかと心配です。施設の老朽化に伴う改善策は住民の意見が十分に反映されなければならないと思います。

今住んでいる市民はこれで良いが、これから生きていく世代には物足りない。

コロナによる環境変化が否応無く迫っているのに、発想は変わっていない。
静岡の魅力を活かした方向性にかけており、活力ある地域にする想像力に欠けていると思います。

重点目標に設定する指標（案）が①市内総生産額（GDP）、②市民一人当たり所得額、③「質の高い生活が送れている」と感じる市民の割合などとされており、経済的な指標に偏っています。7ページで価値観やライフスタイルの変化に言及しており、多様な指標で豊かさを測る工夫が望まれます。

人口減少対策

具体性に欠けるため、ややとした。人口減少においては、なんらかの強い方向性とそれに対する取り組みがほしい。人口減少を受け入れて、それでも観光などで外から人を呼んで成り立たせるなどでも究極的にはよいと思うが、どっちつかずだと計画とは言えないのではないかなと思う。

大都市を目指すのではなく、避けられない人口減少に対し、静岡の持つ強みを生かしながら、移住人口増加を目指すことに共感できるため。

様々な「文化」の育成は良いと思う。その中で、一部の市民のみだけではなく、多くの市民が楽しめるような施策を打ち出してもらいたいと思う。

そして、人口の70万人維持を第4次計画で削除するのは仕方がないと思うが、人口の維持となるような施策をしっかりと打ち出してもらいたいと思う。文化を使った子育て環境の整備や、若者の流出を食い止めるなど、しっかりと人口維持を目指した施策をやってもらいたい。

これからの静岡市を支えていくのは若年層であるが、学生は少ない地元の大学を選択するよりも選択肢の多い都会の大学に進学して、少ない地元の企業よりも選択肢の多い都会の企業に就職する。静岡市の非常に大きな課題だと感じる。ちなみに浜松市の方は地元に住んだまま愛知県の多くの大学を選択でき、多くの優良企業を選択できるとの声を聞いている。静岡市に子を持つ親としては非常に寂しく、次世代を担う優秀な若年層ほど流出の課題が解消されないと感じている。

まなびの文化の地域づくりの内容だけでは重大な課題解消には繋がらない事が懸念される。

また、静岡市には今ある魅力として観光、文化、グルメなどは他の都市にも勝るものがたくさん存在するが、発信力が弱いと感じている。今ある長所を更に魅力的にしていく内容も必要ではないか？

若者の流出は、市内に魅力的な働き口が少ないことが大きな原因だと考えているのですが、新しい産業の創出や誘致などについての施策が目立たないのが気になります。

よくできた計画だが、この程度であればどの市町でも作成するのではないかな。

若い人たちには輝いてもらいたいと思う。若者に対する取り組みを柱の一つに入れるべき。

意見の概要

生産年齢人口を増やす目的があると感じておりますが、その手段として観光誘致面が多く、実際の生産年齢人口の方が暮らしたいと思える街づくりに力を入れないと都内や近隣市町への人口流出はとめられないと思います。学生と接する仕事をしておりますが、依然として都内志向の人が多いです。また、子育てに対するサポートが近隣市町と比べて著しく少なく、家庭を持つと同時に転居する同世代も多いです。

政令市ということもあって難しい面もあると思いますが、すでに子育て支援で全国的にも注目をあつめており、子育て世代が流入している明石市の手法を少しでも取り入れて欲しいです。

- ①人口目標をなくしたことにより明確な数値目標が無くなった。
- ②子育て支援について具体的な内容が何も記載されていない。
- ③子育て支援について少子化は避けられないが静岡市として合計特殊出生率を高めていくのか、希望する子どもの数を叶える割合を向上させるのか、その他の新たな目標を掲げるのか、子育て支援策のさらなる充実を感じさせる目標を掲げてほしい。
- ④待機児童ゼロは三次総の成果であり、それを維持しつつそこから何をプラスするのかを示してほしい。これからは待機児童ゼロしか掲げていない自治体は子育て支援が遅れている自治体と捉えられてしまう。現状維持は退化であり、アフター待機児童ゼロの取組を始める必要がある。
- ⑤先進自治体は待機児童ゼロ達成とは言わない。4月当初待機児童ゼロという表現を使い、さらに年度途中の待機児童を解消していくことを目標と掲げている。1年間で最もハードルの低い4月の待機児童ゼロだけをもって、待機児童ゼロ達成とアピールするのはやめるべき。

人口に関して70万人維持を目標とし続けてほしい。人口維持目標があるから、それを目指すために、よりポジティブな施策の数々が出てくるであろうから。高齢化社会により自然減は免れ得ないが、人口維持不可能を認めると、街の発展を諦めたこととなると感じる。

重点目標内の、定住人口の減少を最小限に抑えつつ、持続的な経済成長を図っていくというのが矛盾するように感じる。また、個人的には最も期待している東静岡のアーリーナ誘致に関する言及がない。

第3次の項でも述べましたが、最大の関心事である人口減少に対して、あるいは70万人維持に対して、傍観者的に見えるからです。時代の流れに責任を負わせるのでは、市民への責任という面ではあまりにも短絡的で無責任だと感じます。静岡市の職員自身による、市民の意見を最大限くみ取った（その努力をした）上での、分析と構想が必要だと思います。少なくとも私や私が住む町内や小学校区で、静岡市の今後について意見を求められた方を知りません。私の育った藁科地区からも、そんな話を聞きません。市民が暮らしやすく、住みやすく、その地域を維持していきやすいまちづくり、静岡市づくりを望みます。

SDGsの推進

SDGsへの先駆的な取り組みは評価できる。

DXの推進

デジタル技術は、平時以外の災害等の有事時にも強いものであればいいと思いました。

文化もデジタルも大切だと思います！

利用できる機会が提供されている（図書館やその他）のですが、私も最近知ることが多く、もっとみんなに知って欲しいです。都会に比べたら、森って感じで良さもあるけれど不便な面もやはり感じます。市でどうなるかとかのスケールではないかもしれませんが。

(仮) 7つの柱

世界的な視点での計画が盛り込まれている一方で、静岡市特有の構想が『7つの柱』に盛り込まれていることに共感できる。

意見の概要

2. 基本計画について

(5) 「7つの柱」について

基本計画では、重点目標として「人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにする」を掲げ、「まちの魅力の向上」と「市民の生活の質の向上」の2つのテーマのもとで、7つの柱（リーディングプロジェクト）を掲げています。この7つの内容をみると、どちらかというと「まちの魅力の向上」につながる施設や環境の整備を進めるプロジェクトが多い印象を受けます。

「市民の生活の質の向上」というと、文化・スポーツ、健康・長寿、安心安全なまちづくりだけでなく、年齢や性別、障がいの有無などによる差別のない多様性を認め合う社会づくりや子育て環境の充実、地域活動への参加、道路、上下水道、河川、住環境などの都市基盤整備、環境負荷の少ない持続可能な社会とライフスタイルの実現など、多くの要素が含まれていると思います。こうした要素も取り入れて、バランスの取れた内容にする必要があるのではないかと思います。

さらに、第3次総合計画から引き継ぐものは通算で16年間にわたり取り組みを継続することになります。静岡市を取り巻く社会環境は目まぐるしい速さと大きさで変化している中であって、第4次総合計画では柱のバランスを取るとか位置付を変えるとかして、これからの8年間は時代の潮流から見える新たな課題に積極的に対応するという姿勢をわかりやすく示す必要があると思います。

現状では、この7つの柱がどのようにして、人口活力を高め、まちと暮らしを豊かにすることに繋がるのか、持続可能な社会づくりの視点がどのように生かされているのか、分野別取り組みからどのような観点から抽出・再編したのかというストーリーを読み取りにくいと感じました。

7つの柱のレベル感がそろっていないように思う。また7つの柱が市民ニーズに合った取り組み内容となっているのかがもう少しわかると良いかと思います。

コロナも含め、ここ数年で社会構造が劇的に変化している中で、「市民の暮らしの充実」の手段として、歴史、海洋、森林、まちは劇場などのフレーズにもたらされる事業が、市民にどれだけ求められているかわからない。ニッチな部分では必要とされているかもしれませんが、もっと、直接的に、日常で喜びや静岡市に住んでよかった、と感じられる施策がほしい。

・目指す都市像が長いように感じます。市民が見てこんなまちになるんだ、と一目でわかる書き方が良いのではないのでしょうか。様々な部署からの意見をなんとか集約した苦心の結果なのが見て取れますが、「世界から注目され、人々が集まるまち」「自分らしく暮らせるまち」くらい短くて良いと思います。

・まなびの文化の地域づくりを推進しても、そこで学んだ学生が静岡市に定住しないと効果が薄いと考えます。もっと若者に焦点を当てて、若者に選ばれるまちを目指す施策を展開してください。

・7つの柱とその説明文に「子育て」の文字が一つもないことが気になります。高齢世代がいくら過ごしやすくても、子育て世代がいけないのでは、まちに活気が生まれにくいのではないのでしょうか。子育て世代への支援を厚くし、子育て世代に選ばれるまちを目指してください。

・「ごみ」「廃棄物」についての記載が一つもありません。コロナ禍の中で、ごみ収集に注目が集まりました。市が持つ自治事務の中で、最も基本的なものが「適正な廃棄物処理」だと思います。施設の老朽化対策として、廃棄物処理施設は最優先すべきです。

横断的視点を設定しているけれども、それが7つの柱や10の重点目標にどう影響するか見えてこない。組織作りという観点を持ったほうが良いように思われる。7つの柱は基本的にはそれぞれのエリアを輝かせる取り組みだが、シナジーがあってはいけないわけではないからもっと相互に関連性を持たせてもよいように思う。そうすることで視野が開ける部分もあるかと思う。

3次総に引き続き「世界に輝く静岡」という基本的な考え方は良いと思います。特に「地域資源(静岡らしさ)を最大限に活かす」は強く共感します。ただ「7つの柱(仮)」にあげられたものは3次総とあまり変わらず「輝く静岡」となるような印象は受けません。歴史文化、海洋文化...も確かに地域資源だと思いますが「世界に輝く…」はともかく日本国内に発信するにしても“これで輝ける”という印象を受けません。これまでの各地域自治体の計画によくあるものの範疇で「静岡らしさを最大限に…」活かしたもので無いように思います。このあたりを今回のパブリックコメントから意見を収集し、計画に反映していただけることを期待します。と同時に市内、県内、国内の民間事業者とのさらなる官民連携において、民間活力を活かし、官にしかできない役割を遂行していただけるよう期待したいと思います。

駿河区を中心とした駿河湾沿いの計画が7つの柱から漏れている為

海洋文化の地域づくり

清水港のまわりが発展することを楽しみにしています。

国際拠点港湾である清水港「海洋文化の地域づくり」はとても楽しみです。スポーツ施設(サッカー場)がJR清水駅近くに来ることを期待しています。病院も利便性の面で駅の近くに来るとうれしいです。魅力ある街づくりが進んで行くと人が集まるのではないのでしょうか。

意見の概要

まなびの文化の地域づくり

ずっとお勉強ができる場所があるといいなと思います。(まなびの文化の地域づくり)
 社会人が学ぶ環境が少ないと感じる。

森林文化の地域づくり

静岡市を面で捉えたときに、7つの柱の中で由比・蒲原地区の魅力向上についての言及が不明確であったため。エリアの観点で都心とオクシズを位置づけているのであれば、由比・蒲原地区も歴史(旧東海道の絡み)や海洋(由比港やサクラエビ、缶詰産業等)のような柱の施策に入れてほしい。

森林文化の地域づくり、特に市街地とオクシズが支えあう枠組み作りに期待します。

新しいオクシズや安全・安心の取組は、必要だと感じる。
 世界に輝くというのは、漠然としていて少しわかりにくいと思う。

オクシズを加えて「7つの柱」として取り組みを進めていくのは、非常に共感できる。特にオクシズについては、静岡特有の地域資源を活用して、サステナブルな取り組み(市との協働でのキャンペーンなど)につながると良いと思う。

「まちは劇場」の推進

まちは劇場の取組に期待しています。賑わいあふれる街中になってほしいです。

「健康長寿のまち」の推進

コロナウイルスによる将来への不安や、健康への意識が高まっているので、静岡市民としても、健康や安心に対する要求は大きくなっていくと思うから

「安全・安心のまち」の推進

コロナが早くなくなって欲しいので、安全安心などの取り組みを進めて欲しいです。楽しく学校生活を送りたいです。

安全安心なまちというのは、これから特に大切になると思います。

感染症は、何年ごとかにあるので、継続的に取り組む必要があるかと思いました。細菌やウイルスと共存できる街づくり、換気等対応のできる施設づくり等。

今後人口の減少・少子高齢化は避けようがないため、それに対応して計画されている。また、新型コロナウイルス感染症により社会の考え方が大きく変化したため、それに対応した計画となっている。7つの柱も具体的に明記されており、この計画に沿って第4次総合計画を実現できれば魅力ある静岡市になるのではないかと思います。

「世界に輝く静岡」の実現にあたっては、外国籍の住民が増えていることに伴い、お互いを理解するための多文化共生の推進が今後ますます重要になってくると感じています。お互いを尊重し合い、誰もが住みやすいまちとなることを期待しています。

安心・安全のまちが追加されたことは、良いことだと思います。

拠点のまちづくりが4次総に継承されるとともに、それを支える「安全・安心のまち」の推進が新たな柱として加わっていること。時代の潮流に対応し、新たな魅力あるまちづくりに期待するとともに、あくまで主役は市民であることを認識しながら、住み続けられる「静岡市」を実現していただきたい。

安心・安全がまず第一にくるのではと考えるため。安心・安全があって初めて歴史・海洋文化等へ取り組むことができると思う。安心・安全を支える基盤へヒト・モノ・カネを投資し、適切なアセットマネジメントを行うことにより、子どもたちの未来へ負債等残さないことが重要。

意見の概要

子育て支援

- ①人口目標をなくしたことにより明確な数値目標が無くなった。
- ②子育て支援について具体的な内容が何も記載されていない。
- ③子育て支援について少子化は避けられないが静岡市として合計特殊出生率を高めていくのか、希望する子どもの数を叶える割合を向上させるのか、その他の新たな目標を掲げるのか、子育て支援策のさらなる充実を感じさせる目標を掲げてほしい。
- ④待機児童ゼロは三次総の成果であり、それを維持しつつそこから何をプラスするのかを示してほしい。これからは待機児童ゼロしか掲げていない自治体は子育て支援が遅れている自治体と捉えられてしまう。現状維持は退化であり、アフター待機児童ゼロの取組を始める必要がある。
- ⑤先進自治体は待機児童ゼロ達成とは言わない。4月当初待機児童ゼロという表現を使い、さらに年度途中の待機児童を解消していくことを目標と掲げている。1年間で最もハードルの低い4月の待機児童ゼロだけをもって、待機児童ゼロ達成とアピールするのはやめるべき。

観光客のことを考える前に住民のことを考えてください。
もっと教育に自主性と安全性を持たせてください。
義務が多すぎます。自主性にかけています。
部活の試合で親が車を出す文化はおかしいです。中学生になったら自分で電車もバスも乗って目的地までつけます。
ぼーっと学生時代を過ごさせないで、もっと考える力を鍛えてください。
せっかく少子化してるんだからポジティブに考えて一人ひとりに手厚い教育をしてください。
外国人が結構住んでると思うなら、英語が誰でも話せるぐらいまで招致してもっとグローバル化してください。

人口減が著しい静岡市ですが、その増加に繋がる若者、子育て世代に訴える柱がないことに疑問を感じます。街は劇場など華々しい施策も分からないでもないですが、基礎自治体として、若者や子育て世代にもっと響く柱を立てて欲しいです。市民としては、箱物行政ではなく、働きたい企業の誘致、起業しやすい環境整備、他の地域に負けない子育て政策を求めます。
福岡市では、若い世代の人口が増加しているとNHKでやっていました。そのような先進都市の良い所を真似して下さい。真似は悪いことではありません。また、箱物行政については、本当に基礎自治体として必要なのか、そもそも行政がやるべきものなのかの熟考をお願いします。

子育て世代を重視したものになっていないから。市に活気が出るには、若い人たちが住みたい街であることが重要であると思うが、現在の構想からはそれを感じることができない。票が取れる高齢者への事業を充実させたいのと思うが、若い稼ぐ・子育て世代をもっと重視して欲しい。「安心して子育てをしながら働ける街」を目指すことが重要だと思う。周りの親たちも、静岡市の子育て環境に満足していない人が多い。

とても共感でき、良い基本構想だと思いました。「どれだけ技術が進歩し、社会環境が変化したとしても、私たちが内面に秘める本質や人間らしさを求める思いは変わることはありません。」その通りだと思います。大きく変わる世の中、どのような未来を計画するかと考えた時、未来を担う子どもたちをどのように育てるかが大きな鍵になるのではないのでしょうか？子どもの教育、学校に関することが計画に見えないのが残念です。

インフラ整備

スーパーや病院など、郊外に住んでいても高齢者でも、不便なく暮らせるまちづくりをのぞみます。

施設整備

柱が増えることで拠点整備としてハコモノが増えることにならないようにしてほしい。

方向性としては理解できるが、現状で公表されている市の政策と異なる部分があると感じ、本当に総合計画通りの街づくりが進んでいくか疑問。
例えば基本計画内で「公共施設のアセットマネジメント」が時代の潮流にあるとしているが、今後静岡市において水族館、歴史文化施設、植物園、アリーナ、スタジアム等、新規のハコモノ整備が予定されていると認識している。
持続可能なまちづくり、そのためのアセットマネジメントという視点が総合計画に記載されるなら、大きな施設整備は取りやめるといふことなのか。計画と現実の施策との整合が必要ではないか。

意見の概要

評価

記載の内容の方向性は共感できます。一方で、その理念を具体的な施策に落とし込むときに、施策という「手段」を実行することが「目的」にならないように注意が必要だと考えます。「何を目的にして」「どんな施策を行い」「どんな効果があったのか」という視点が重要です。

また、うまくいかなかったものは、しっかりと「うまくいかなかった」と評価して、次回にどのようにつなげるのか、を考えて良いと思います。うまくいかないこと自体に文句を言うような低い層に視点を合わせる必要は無いです。

スタジアム

国際拠点港湾である清水港「海洋文化の地域づくり」はとても楽しみです。スポーツ施設（サッカー場）がJR清水駅近くに出来ることを期待しています。病院も利便性の面で駅の近くに出来るとうれしいです。魅力ある街づくりが進んで行くと人が集まるのではないのでしょうか。

静岡の『心の公共財』である清水エスパルスを利用した街づくりが欲しいです。

また、その起爆剤としての新スタジアム建設が計画に盛り込まれていないことは、市民として不満である。

その他

注目すべき目玉事業や方向性や考え方がほしい。

取り組みが遅い。優先順位をつけて積極的に取り組んで欲しい。

今後の策定作業の参考意見として取り扱う主な意見要旨

意見のタイトル	意見要旨
計画全体	
世界に輝く静岡について	世界に輝く静岡のためには、人が輝いている必要があると思う。そのうえで地域資源が輝く。今のプランだと地域資源が輝く結果人が輝くとなっているが私は順序が逆だと思う。また、人が輝くまちにするという割には人に対するアプローチがないように感じる。今のプランだと地域のリソースとアセットの管理が主で、いかに人の気持ちを盛り上げるか、寄り添っていくかがわからない。
観光や人口減少などについて特に目新しいことをする必要はないのでは	個人的な意見としては、静岡市は住む人が住みやすい市を目指すべきだと考えていて、人口減少や観光に新しいことをする必要はないと考えている。細かいこと、交通やインフラ、教育の水準など当たり前のことに力を入れてほしい。新しいことにお金を使うとそういった当たり前のことにお金を使えなくなってしまう。堅実をお願いしたい。
	<p>施設ができて街が賑わいをみせても一過性になりかねない。持続可能な社会にするためには、そこで雇用を生み交流人口の増加につなげていく必要があると思う。歴史文化をはじめ豊かな海産・農作物、伝統工芸など静岡市には大きな魅力があるので、地域資源を活かした好循環には期待していきたい。今後首都圏からの移住者も増えると思うが、実際生活をする上では市民サービスが一番大事だと思うので、賑わいが見かけのものにならないよう取り組みを進めてほしい。また、新たな価値観と生活が生まれている今、SDGs、DX、脱炭素は街を「選ぶ」うえでも重要なポイントになると思うので、市民に向けての取り組みをより明確化すべきである。</p> <p>魅力がたくさんあるのに何となく全て中途半端で効果的な情報発信ができていないと思うので、そこは今後期待したい。今の住まいは回覧板や広報誌も届かないので、市の情報は自ら探しにいかないといけないが、市のホームページは使いにくく情報を探するのが困難、LINEもコロナ情報と市長会見しかこない。市役所や学習センターに行けば情報はあるが、若い世代はそこに出向く機会もないので情報発信については改善すべきだと思う。</p> <p>私自身、首都圏から仕事で移住してきて10数年が経つが、気候がよく食も豊か、都心への交通アクセスも便利で住みやすい街だと感じている。今後県外・国外出身者も増えると思うので、より静岡市になじみやすくなるサービスや静岡市を好きになってもらえる取り組みに期待していきたい。</p>
	<p>上記しましたが、大筋の基本構想には共感出来ます。しっかりと理念をもって、数値で進捗管理することを期待します。</p> <p>現場にいない誰かの思い付きのような意見を取り入れて、いびつなもの・不十分な施策にするのではなく、実務をやられる担当者の考えを存分に盛り込んだ力強い取り組みを期待します。</p>
4次総の着実な推進	上記Q4の理由でも記載したが、他の政令指定都市にはある「博物館」や「水族館」などの文化的施設が、ようやく静岡市にも整備されようとしている。ウイズコロナの時代に地域経済をけん引するファクターとしては勿論であるが、目指す都市像に掲げる「まちが輝く」、「市民が輝く」ためにも必要不可欠な施設であり、一部の声に惑わされることなく、静岡市の健全な財政状況を丁寧に説明する中、自信をもって確実に実行するところを切に願う。

意見のタイトル	意見要旨
<p>華々しさよりも、地道さを大事にしたまちづくり・静岡市づくりを</p>	<p>子どもと老人が歩いていくことのできる範囲に、学校や公園や公民館や図書館など公共施設と商店があること、これは住みやすさ、暮らしやすさを考える上での原点ではないかと思えます。可能な限りそれを維持していく努力をお願いします。たとえ静岡市を離れていく人がいても、必ず帰る場所があることが大事だと思っています。また、子どもと老人が住む場所には、雇用が確保されると（どちらが先かは別として）考えます。またそうすべきです。</p> <p>全体の奉仕者である公務員を増やすことも優先させてほしいと思えます。（山間地では、郵便局、JA、診療所も同様の位置づけができると思えます）頼りにされ、身近に感じられる公務員の存在も、暮らしやすさ、住みやすさにつながるものだと思います。尚、地域経済の観点からも、公務は大きな存在です。産業別生産額、産業別雇用者所得、域内域外の所得獲得産業分析なども行い、公表してください。重要な指標になると思えます。</p> <p>政策的、学問的な影響が構想の中に出てくると思えます。しかし、戦後だけを振り返っても、わずか70年余で施策はかなりブレがあると思っています。目先がどれくらいかも議論があると思えますが、短絡的な議論だけは避けてほしいと思えます。</p> <p>追；公共建築物について、選択集中、統合・複合化、長寿命化などの議論があります。いつもおかしきと思うのは、当然建設されたときから、修繕、寿命建て替えなどを考慮するのは当たり前だと思うのですが、その計画がされていなかったということでしょうか。その反省や責任のあり方も問われなくてはならないのではないのでしょうか。今後の建設計画に反映させてほしいと思えます。</p>
<p>周辺市町等との連携を強め、費用を抑えて地域資源の価値を高め、魅力ある都市圏創出の取り組みの積極的推進</p>	<p>静岡市は、北に南アルプスの山々、南に駿河湾太平洋が広がるという素晴らしい自然環境や地理的条件に恵まれて、日本の東西を陸と海で繋ぐ交通の要衝として発達してきました。4次総合計画案においてもこれらを活かしながら、駿府城公園の整備などの歴史文化の地域づくり、清水港・駿河湾を活用した海洋文化の地域づくり、自然豊かなオクシズでの森林文化の地域づくりが柱の中に位置づけられて、地域資源を輝かせる取り組みを進めようとしています。この取り組みをさらに積極的に広げ、他の市町の地域資源と結びつけることで、コストを抑えながらその価値を増大させ資源の輝きの最大化を図ることが今後持続可能な社会を実現する上で大変重要になると思えます。</p> <p>例えば、歴史文化の地域づくりを進める上では都心機能充実と駿府城公園の整備だけでなく、由比蒲原から金谷までの旧東海道沿いに残る史跡などと関連づけることで、家康時代のまちづくりに対する理解も深まり、広がりをもった観光資源となることで滞在時間も長くすることができると考えられます。海洋文化の地域づくりに関連しても、国際拠点港湾としての清水港を中心にして駿河湾に関係する市町と連携した事業を進めることで、清水港を起点として駿河湾の回遊する観光客、各地域の特産品などの流れができるのではないのでしょうか。森林文化の地域づくりでは、安倍川・藁科川から井川、南アルプスに至る流れだけではなく大井川に挟まれた面的な広がりを持つ魅力ある中山間地域として人を惹きつけることができると考えられます。</p> <p>このように、現在の静岡市内にある資源を周辺の市町と結びつけて考えることで行政区域にとらわれない広い視野で地域資源をとらえ直し地域資源が本来持つ魅力可能性を高めることができると思えます。こうした連携つなぐで魅力を増した地域資源を、中部横断自動車道や東・第二東名、新幹線、清水港、静岡空港などのインフラ活用して国内外に発信し、ヒトやモノ、経済の大きな流れをつくり出すことができるのではないのでしょうか。</p> <p>特に、地理的歴史的、経済的にも静岡市との関わりが深い志太榛原地域と静岡市を一体的に捉えれば、人口では110万人以上、可住地面積では800km²にもなり、地方の政令指定都市の中では上位になると思われれます。ここには空港や港湾、道路、鉄道などのインフラが全て揃っており、地域資源を効率的に活用することで国内外からヒトやモノが集まり交流し住まい、企業や研究・教育機関などを誘引できる都市圏の創出を期待できます。市民への行政サービスの効率的な提供も考えられます。</p> <p>近い将来には、リニア中央新幹線で首都圏、中京圏、近畿圏をつなぐ巨大な都市圏がつくられようとしています。この巨大な都市圏に静岡市のヒトやモノ、経済が吸い取られてしまわないよう、静岡市周辺の市町と、とりわけ志太榛原地域の市町との連携協働を強化して、民間企業や大学、研究機関などとも協力し合って、静岡県中部地域に創造的で活力のある持続可能な都市圏を創出する取り組みを積極的に進めていただくことを期待します。</p>
<p>人口減少対策</p>	
<p>人口推計への取組</p>	<p>人口減少に対して、子育て支援や外国人との共生への取組を行い、静岡が多くの人で賑わう、活気あふれる街になって欲しいと思う。</p>

意見のタイトル	意見要旨
<p>都市部からの移住者が増えているのに、静岡市がその受け皿となっていない 移住者増えなければ関係人口増やす</p>	<p>静岡は移住先として人気が高いにもかかわらず、静岡市は移住者が思った程増えていない。 なぜなら、物価が高い、交通費が高い、不動産が高いなどの要素に加え、就職先のに選択肢が少ない。 また移住は上記の要素から直ぐに増やすにはハードルが高いと考えられる。 ただ、生活環境は品質が高いため、高齢者が移住しやすいと思われる為、生産人口に結びつきにくい。 このままでは、良い人材が増える事は益々厳しい状態が予測される。 考え方の一つに関係人口を増やすと言う方法なら、静岡には合っているのでは無いかと考えます。 都心から地理的に近く、都市でも地方でも暮らす生活スタイルのもので事ですが、この静岡で仕事もレジャーも楽しむワーケーションを充実させて、将来の移住先にする方法です。 その為には、静岡市内でのコワーキングスペースの充実、県外からの旅行者には低額で利用し放題の交通費の設定、静岡市迄のワーケーション利用者の交通費負担等の政策で気軽に来れる対策に予算を付ける。 実際、大都市から飛行機を利用すれば安くいく方法はあるにもかかわらず、静岡市は鉄道が主体の為、選択肢が限られている。 また、市内の交通網はバス・タクシーが主体で、移動費負担が大きい点がネック。 更に、大企業が少なく会社員としての移住では就職先の選択肢が少ない。 この点は、独立・開業促進窓口の充実で対応する事で、企業に就職する事以外の選択肢を充実させる。 茶業農家が年々減少している現実を見るに耐えません。 ブランド化やお茶の文化の振興対策にも強化が必要と考えます。 高齢者にITリテラシーの教育に対する地域への働きかけと予算化により、健康長寿と地域内の情報の交換を進め、地域活性化を図る。 地域住民が集まれる場所の充実。特に私の住む神明町では使い勝手の悪い会館しか無く、高齢者の利用は危険ですらあり、地域交流の妨げになっている。 早急に予算化して地域住民が集える場所が必要です。</p>
<p>人口減少について</p>	<p>人口減少はもうしょうがないことなので、人口の量に固執するのではなく、生産性や効率性、経済的価値の創出、イノベーションが生まれやすい環境やまちづくりにシフトし、人口減少以上の稼ぎを生み出せるまちにしていくことが大切だと思います。70万人の維持というフレーズがなくなった点に賛成します。</p>
<p>ダイナミックな街の発展、開発を今後も求めます。</p>	<p>確かに人口減は免れえない現実はあるが、それを諦めて欲しくありません。 私は静岡市に生まれ育ち、今後も死ぬまでこの街に住み続けたいと考えていますが、一方で人口減により衰退していく街に住み続けたいとも思いません。 また、自分の子供世代に、この街は退屈だね、と思わせたくありません。 なので、これからもダイナミックな開発を続けて欲しいです。 アリーナ誘致、海洋文化施設、スタジアム開発、大浜プール改修などは具体的スケジュールを決めてスピーディに行ってほしい。</p>

横断的視点	
<p>横断的視点の必要性</p>	<p>【4】基本計画(1)時代の潮流で9つの取組を挙げているが、(4)の横断的視点の3つは、ほぼここで説明できるので重複感がある。そもそも9つの取組自体が横断的に取り組むべきことなので、わざわざ3つ取り上げて記載していることに違和感を感じる。</p>

意見のタイトル	意見要旨
SDGsの推進	
SDGsを静岡の地域レベルに落とし込む努力を	SDGsについては「時代の潮流」と「横断的視点」の2箇所而言及されていますが、取り上げられている内容はどちらも当たり障りなく、触れておくべきキーワードとして添えられている程度の印象を受けます。ただ漫然と世界共通の目標を掲げるのではなく、SDGsの理念、本質を理解した上で、静岡のサステナビリティとは何なのか、それこそ「地域資源」と「自分らしい人生」にフォーカスするなどして静岡市独自のローカル指標を策定し、総合計画に組み込むか、リンクさせていただきたいです。国のSDGs実施指針でも地方自治体の役割の中でそれが期待されています。
次世代を牽引するための企業誘致	魅力的な企業は、魅力的な人材を惹き付けると思います。これからの時代を牽引する企業が、これからの時代を牽引する人材を集めるため、SDGsに資する企業への補助金を重点的に実施してほしいです。

DXの推進	
DXの推進について	DXの推進にあたってはデジタルデバイドの課題も無視できません。庁内連携、官民連携など多様な手法により格差解消の取組も併せて進めていけると良いのではないかと思います。
教育や農業の現場へのIOT技術の導入	コロナウイルスの影響で、教室で勉強を受けられないといった状況も多いかと思います。これからの情報社会の時代に必要となってくるIOT知識を身に付けるため、教育の現場にも、更なるIOTの導入が必要になるのでは無いかと考えております。また、人手不足が深刻化している農業分野においても、農薬散布ドローンや、施肥時期管理アプリなど、IOTの導入による、人手不足の解消が期待できるのではないかと思います。よろしく申し上げます。

脱炭素社会の実現	
脱炭素社会に向けた取り組みについて	2050年ゼロに向けて、市民ひとりひとりの意識改革や行動変容につながるイベントや脱炭素に資する取組を実践しようとする個人や企業を支援する新たな取り組みを検討します。
「光熱費ゼロシティによる脱炭素都市（カーボンフリーシティ）の実現」「サテライトシティ・庁舎レスシティの実現により住民票の転出抑制、転入推進（税収保持）」	<p>世界で輝くためには日本でも輝く必要がある。 エネルギー自給率が低い日本において、化石燃料や原子力に頼らないエネルギー政策を国や大きな電力会社に任せずに、静岡市や他の自治体と連携し牽引できれば輝くことが可能ではないか？ 失敗は許されないため、静岡市独自に拘らず、実績のある国内外他都市の良いとこどりや連携により、一緒に輝いても良いのではないか。 素人考えだが、例えば、光熱費は夏より冬の方がかかるが、静岡は晴天日も多く温暖でそのため光熱費を抑えることが可能で、これは一般家庭のみならず企業でもこの点は言えるのではないか？ つまり、市の施設、民間の社屋や家の脱炭素に係る資材・システムに対する新たな予算措置、助成・補助金等があれば、光熱費ゼロシティも夢ではないと考えます。 2大都市圏の間にある好立地（どちらにもヒトやモノが動けるため、移住や企業誘致、、、etc）を背景にしたグリーン政策の推進（EV用電池再利用蓄電池、ペロブスカイトソーラー等次世代太陽光技術導入検討、、、etc）により「光熱費ゼロシティによる脱炭素都市（カーボンフリーシティ）を実現する」 また、働き方の変化とDXの推進を上手く使えば、転出者の抑制、転入者の増が可能ではないか？ 例えば、かつて・今は新幹線通勤をしている人もいるが、娘の会社では大きなパネルで本社と支店を常時テレビ会議システムでつないでいるとのこと。こういった技術を使って地価が都心より安い静岡で仕事がしやすい環境整備に支援をして、サテライトシティの実現を目指してはどうか？ あわせて、懸案となっている清水庁舎の建設はもう止められないのかもしれないが、駿河区役所の様に人が集まる民間商業施設と庁舎が近いことは良いことだと考えます。さらに進んで、DXの推進とあわせて海洋地球総合ミュージアムにネット窓口を併設して、清水庁舎建設をやめ、庁舎レスシティを目指すのはどうか？</p>

意見のタイトル	意見要旨
(仮) 7つの柱	
	<p>現住所は藤枝ですが、以前に静岡市に住んでおり、勤務は静岡市のためコメントさせて頂きました。</p> <p>手広く商売しすぎという印象を受けます。人も税収も少なく、支出は増える一方なのでしょうから、もっと絞ってもよいのではないのでしょうか。政令市である、という無駄なプライドがあるのかもしれませんが。</p> <p>具体的には、「まなびの文化」と「森林文化」は外すべきではと思います。費用対効果が低そうですから。個人的には、海洋文化には期待してます。また、このパブコメは確認すべきものや入力すべきものが多いため気軽にできず、かなりヒマな人しかやらないのでは?と思いました。</p>

歴史文化の地域づくり

歴史文化のまちづくりについて	<p>新たに建設される歴史文化施設を中心に回遊する考えは良いが、その範囲は浅間神社だけではなく、登呂博物館や木枯らしの森(枕草子)、中山間地にある神社の無形民俗文化財、久能山東照宮、三保まで市全域を対象に、貸出自転車パークルと連動した回遊・回廊構想をマップ化し、トロベイフラワーロードの整備を地元愛護会と連携して実現していくなど市民を巻き込んだ施策展開を期待します。</p>
歴史に触れる学びについて	<p>家康や今川など、静岡に関する歴史を理解している人は少ないと思う。(特に若年層)もっと身近に簡単に歴史を学ぶ機会を作って、市民全体で静岡を盛り上げるようになるとういと思う。</p>

海洋文化の地域づくり

市民の意見をもっと考えて聞いてください	<p>まず清水に新しい水族館なんていないと思います。</p> <p>すでに類似施設があるのに、経営コストが高く、客単価が高くなりそうで集客率が悪そうな施設はいりません。</p> <p>そんな施設を作る前に、住みやすさや安心安全を重視するなら防災対策をやってください。</p> <p>あほほどお金をかけた水族館なんてやめてほしいです。無駄遣い。</p> <p>もっと交通の便を良くして、公共料金を一律百円とかにして車を減らし、CO2削減に努めてください。</p> <p>これから高齢化がどんどん進みます。高齢者がばんばん車を運転してるなんて正直怖いです。</p> <p>うちの近くでもよく衝突事故があります。交通標識をきちんと整備して事故を未然に防いでください。子どもをこの場所で育てたいと思われないと人口なんか増えません。小学校の学区もおかしいと思います。圧倒的に他の小学校のほうが近いのに学区で決められてるから学校を変えられませんよね。頭の固すぎる運営はやめてください。コロナが収まる気配なく、これからもマスク生活が予想されます。片道一時間弱かかる小学校にこれから子どもを通わせないといけないのかと思うと、静岡市に越してきて後悔しかありません。コロナのワクチンも遅い、隠蔽体質でどこでコロナ感染がでたか教えてくれない、最悪の市です。住みにくいです。育てにくいです。おすすめできません。もっとこれからここで暮らす人のためにお金を使ってください。</p>
「シズマエ」海洋文化の創生	<p>清水とは異なる「シズマエ」の海洋文化を広く世間にアピールしたい。そのためのインフラ整備も進めて欲しい。</p>

意見のタイトル	意見要旨
まなびの文化の地域づくり	
基本計画（5）7つの柱：まなびの文化の地域づくり【草薙・東静岡副都心】について	東静岡・草薙・清水エリアには静岡大・静岡県立大・常葉大・東海大・静岡英和大があり、「まなびの文化の地域づくり」に整合するので非常に良い計画だと思います。ただ、実際にはこれら全ての大学が連携したプロジェクトというのはほぼ存在せず、大学施設や研究機器の相互利用や学生交流なども進んでおらず、各大学が個別に事業をおこなっているだけに近い状況です（コロナウイルスの影響も大きいですが）。大学間の連帯感や地域レベルで連携した雰囲気作りなどは進んでおりません。もし静岡市が主導してこれらの大学が共同参画・連携推進できるようなプロジェクトを立ち上げ、グランシップなどを活用したイベントなどで大学間の協調的な雰囲気や学術的な学生交流の機会を作り上げることができれば東静岡エリアが「まなびの文化の地域」としてより輝くように思えます。文京エリアとしての地位がより確固たるものになれば、少子化時代になっても東京や名古屋からの学生を集客する地域ブランドとしての宣伝材料や競争力が維持できるはずと考えます。政策の成功を期待しております。
教育、特に学校図書館の充実	学校図書館に専任の学校司書を配置し続けていただき感謝します。学校図書館支援センターの設置や支援室のポータルサイトができたことは、大きな前進だと思います。支援センターを更に充実させてください。また、学校司書の待遇改善をぜひお願いします。
学校図書館の充実について	第3次総合計画においては、学校司書の待遇改善や市教育センター学校図書館支援室の設置が実施され、標記の施策が画期的に前進したことを私は評価しています。折しもコロナウイルス感染の影響で急速にすすみつつあるICT教育やGIGAスクール構想のもと、子どもたちの情報拠点である学校図書館は、多様なメディアによる資料の収集・提供が期待されることとなりました。学校図書館教育は情報教育の分野と協力して、子どもたちのメディアリテラシーや情報リテラシーの教育を担っていく存在になるのではないのでしょうか。通信環境の整備や電子資料への目配りなどが大切ですが、最も重要なのは学校司書が専任・専門・正規の条件で活躍できるような待遇の改善です。子どもたちの「読みたい知りたい」を応援し、教師の授業づくりを支えるメディア専門職としての学校司書がいる学校図書館は、学び続ける市民を育成する基礎となります。第4次総合計画では、「まなびの文化の地域づくり」が提唱されていますが、その実現の一助を担う学校図書館に大いに目を向けていただけるようにお願いします。

森林文化の地域づくり	
他都市よりも魅力ある街を目指してほしい	森林文化のニュアンスは伝わったが、具体的なビジョンがわからない。それぞれの分野がどのように7つの柱に関わっていくかわかりやすく示してほしい
サーキュラーエコノミーの推進	オクシズなど中山間の町で持続可能な町づくりの実験を行う、イメージは徳島県の上勝町。結果、交流人口が増加するのでは？
森林文化の地域づくりについて	オクシズ地域は、少子高齢化の進行が特に著しい地域です。市域面積のほとんどを占めるこの地域の活用は、これからの静岡市に重要であると考えます。DXの推進、企業誘致などあらゆる策を巡らせていただき、オクシズ地域の発展を願います。
森林文化の地域づくり（オクシズ）	オクシズにカフェが出来たら行きたいです。

「まちは劇場」の推進	
まちは劇場の推進	多様性や寛容性を身に着け、「選ばれる都市」になるための重要な施策であると考えます。市民が主体となって取り組む環境を整えていきたい。
まちは劇場について	駿府城公園にシアターやスクリーンを用意して、映画の放映や、まちは劇場を思わせる広告（三井不動産・東京ミッドタウン日比谷コンセプト「映画みたいな街が生まれる」日比谷劇場のまち）（ポスターetc）の掲示、またオリジナル動画を作成する（YouTubeにアップ）。

意見のタイトル	意見要旨
「健康長寿のまち」の推進	
市民の生活の質の向上	健康に関する情報、セミナー等の開催
「安全・安心のまち」の推進	
高齢者、障がい者、外国人、LGBTQなどの人材活用について	<p>様々な取り組みが次期計画にも持ちこまれていると思います。海洋文化都市や歴史文化、森林文化、まなびのまち、まちは劇場の推進など、まちの魅力的を推進するような施策が現計画からさらに進んでいくことと思いますが、これらの分野を、高齢者、障がい者、外国人、LGBTQなどを人材として活用していただきながら進めていただくことを期待します。人口減少が進む中で、いわゆるマイノリティの方々の熱意や能力を活用しながら進めていくことは、人材確保の面でも、ユニバーサルな街づくりの面でも有効であり、世界水準の都市の実現に不可欠だと思います。今もいろいろな場面でマイノリティの方が活躍する場面は増えてきていると思いますが、特に注目度の高いこれらの分野での活躍があってこそ、市内外にアピールできるのではないのでしょうか。</p>
子育て支援	
子供やお年寄りが住みやすい街づくり	<p>歩道の段差をなくす 子供が安心して遊べる公園づくり 駐車場完備の駿府公園</p>
	<p>こどもを育てるようになって3年ですが、静岡市には駐車場が完備されてる公園だったり、水遊び出来る場所や室内遊び場が少ないと思いました。 コロナ禍で行動範囲が限られる中、密にならずに遊べる場所を探すのに苦労します。 焼津や島田、藤枝、富士など無料で遊べたり、格安で遊べたりする良いところがあって、そこまで行くこともあります。もっと近くにあれば沢山遊ばせて上げられるのになと常日頃思ってます。特に屋内遊び場が無いので、炎天下や雨の日などは家の中で過ごすしかありません。そういう施設がもっと増えてくれたら嬉しいです。</p>
これからの静岡市を支える学生や若年層にとって地元で留まる魅力あるまちづくりを計画する。	<p>これからの静岡市を支えていくのは、現在の学生達であるが、優秀な学生ほど都会に流出してしまう。しかしながら、今でも静岡市には数は少ないが優秀な大学はあるので、大学を増やすことは難しいが、今ある少ない学部をもっと増やすことができれば将来的な選択肢が増えて学生にとっては魅力的なまちになる。もちろん、その先には学部に応じた地元の企業との連携により、優秀な人材を地元で就職できるシステムが不可欠であり、行政にしか出来ない取組みである。 こうした静岡市の重大な課題は、学生のうちは気づかないので、しっかりと大人が環境やシステムを作ってあげないといけないと感じている。 また、アンケートや周囲の声などから子育て世代にとっても、他の都市の取組みに比べて魅力は少ないと感じている。他の都市の真似でもいいので優良事例をもっと取り入れても良いのではないかと。</p>

意見のタイトル	意見要旨
子育て支援の拡充	<p>日本は少子高齢化の中、「産み」に対する支援はそこそこ行っているが、「育てる」部分に関して多少おろそかにしていると感じている。子育て支援カードはとても有難い。児童館についても利用しやすく助かっている。しかしいま子育て世代が抱えている問題といえば金銭面である。</p> <p>全国的に見て子育てで兵庫の明石市がパッと思い浮かぶと思う。</p> <p>転勤などで市の境あたりに住まないといけないorどちらの市でも良い、と言った場合、交通アクセスよりも子育て支援がより充実している方には傾くため、明石市は人流を取り込み市民税を潤すことが出来ていると考えられる。</p> <p>1歳までのオムツ支援を聞いた時は驚いた。そこまでの支援があるなら、関西に引っ越すことがあるなら住みたいと思ってしまう。</p> <p>今それに続く子育てで有名な市が未だ出てこない。2番目に名を上げることが出来るか出来ないかはかなり重要ではないか考える。</p> <p>1歳までのオムツ支援をしると言っている訳では無い。半年でもいい。何か必要経費の半長期的な支援があるか無いかではないか。</p> <p>静岡は転勤族も多く、住民の取り込みは充分可能な下地があるはずである。</p> <p>その転勤族に静岡に住みたいと思わせれば、静岡で家を買って、また次父親だけ都会に単身赴任する、なんてことも出来る。</p> <p>それには都会は利便性があるが、それを失ってでも静岡市に住みたい、ここで子育てをしたい、と思わせる何かが必要なのである。</p> <p>富士山があり、海があり、のどかで気候も安定しており、新幹線で東名阪へのアクセスもいい。ディズニーランドへも新幹線と在来線を使えば2時間あれば行けてしまう。これは神奈川の中腹～端に住んでいるのと変わらない所要時間である。(お金はかかるが。そしてこのことをアピールしていないのも謎)</p> <p>このポテンシャルを活かし、活気づけるにはまずは「人」が必要なのである。住みやすいよ！と言う人が必要。こんな支援があるよ！すくなく！？という目新しさが必要。明石市程ではないけどあちらを参考に、出来ることはやると思う。</p> <p>もちろん短期的に効果は出ないだろうが、長期的に見て関東方面の人を取り込むのであれば、よそにはないサービスを考え、SNSを駆使することが必要であると考え。</p> <p>(そう言えば前に用宗の大船公園で海をバックにウエディングフォトを撮っていたのを見た。都会の人にとってはあの景色はとても映えます。もっと宣伝すると思う)</p>
	<p>赤字の箱物の設置等ではなく、生産年齢人口を増やすための具体的かつ根本的な改革を期待します。我が家は既に子どもがおり、かわいく、どんな苦勞をしても育てたいと思っていますが、まだ子どもがいない家庭はこの不況と政府の子育て政策の改悪続きで、子どもを持つことを諦め始めています。子どもを産みたいと思える人が一人でも増えるような環境づくりをお願いいたします。</p>
子育て支援を充実させてほしい。	<p>①こども園を1号認定も預かって欲しい。 私の住む袖師地区は幼稚園が本当に無い。 幼稚園を通わせるかどうか悩むレベルで遠い私立幼稚園しかないし、こども園はあるけど名ばかりで1号を預かってくれるところなんてほとんどないです。ましてや手出しが多い私立幼稚園しかないの、今国会でも問題になりそうですが、幼稚園の費用を所得条件で実費になったら通わせられません。</p> <p>②児童医療費について 児童医療費がよその市町村で18歳まで無償化の動きが広がってる中まだ静岡市は無償化にならない。これって結構大きいもので、なにか異変があったときに直ぐに病院に連れていける余裕が生まれる。逆に体の変化をかかりつけ医が見ることが頻繁になるから虐待とか大きな病気の早期発見にも繋がると思う。より早く無償化にして欲しい。ちなみにこれが原因で富士市や他県に転出した知り合いもいる。</p>
子育て世帯に優しい静岡市	<p>出産後産後ケア事業を利用させていただきありがたかった。おおむね満足だが改善してほしい点があった。産後ケア施設は助産院が多く、子を預けて休める環境がなかった。浜松にトトハウスという産院に付帯した産後ケア専用施設があるがそういった専用の施設があると嬉しい。核家族化や私のように実家に母がおらず里帰り出産できない状況のときに休むために必要だと思う。二人目三人目を考えたときにも安心できると思う。</p>

意見のタイトル	意見要旨
アフター待機児童ゼロチャレンジ	<p>待機児童ゼロのその先の対策を進めていく。</p> <p>①年間待機児童ゼロ 少子化時代を見据えて、②から⑥の対策を活かした既存施設を最大限活用した年間待機児童ゼロへの取組を始める</p> <p>②量から質へ 静岡市式保育モデルの作成 全国に先駆けて配置基準の見直しを実施し、保育の質の向上プラス少子化時代の保育施設の廃園対策を実現する</p> <p>③保育施設と児童発達支援施設のハイブリッド公立園の開設 少子化を見据えて公立園を保育機能だけでなく障害児を受け入れる児童発達支援施設としての機能を持つ静岡市独自のハイブリッド園を開設する。</p> <p>④保育ステーションの開設 静岡駅に保育ステーションを設置し、保育園バスで少子化により受け入れが減少する郊外の園への送迎を実施し、既存施設の活用による東京通勤を希望する家庭の支援を実現する。</p> <p>⑤保育士養成都市しずおか 研修受講のための巡回保育士の確保や配置のための人件費補助を行うとともに、全国1レベルの研修実施体制を整備し、保育都市しずおかを目指す</p> <p>⑥保育ソーシャルワーカーの配置 保育園を巡回し、様々な社会支援制度と保護者を結び付けられる人材を確保するまたはスクールソーシャルワーカーとの連携体制を構築する。</p>
市民の意見をもっと考えて聞いてください	<p>まず清水に新しい水族館なんていないと思います。</p> <p>すでに類似施設があるのに、経営コストが高く、客単価が高くなりそうで集客率が悪そうな施設はいりません。</p> <p>そんな施設を作る前に、住みやすさや安心安全を重視するなら防災対策をやってください。</p> <p>あほほどお金をかけた水族館なんてやめてほしいです。無駄遣い。</p> <p>もっと交通の便を良くして、公共料金を一律百円とかにして車を減らし、CO2削減に努めてください。</p> <p>これから高齢化がどんどん進みます。</p> <p>高齢者がばんばん車を運転してるなんて正直怖いです。</p> <p>うちの近くでもよく衝突事故があります。</p> <p>交通標識をきちんと整備して事故を未然に防いでください。</p> <p>子どもをこの場所で育てたいと思われないと人口なんか増えません。</p> <p>小学校の学区もおかしいと思います。</p> <p>圧倒的に他の小学校のほうが近いのに学区で決められてるから学校を変えられませんか。</p> <p>頭の固すぎる運営はやめてください。</p> <p>コロナが収まる気配なく、これからもマスク生活が予想されます。</p> <p>片道一時間弱かかる小学校にこれから子どもを通わせないといけないのかと思うと、静岡市に越してきて後悔しかありません。</p> <p>コロナのワクチンも遅い、隠蔽体質でどこでコロナ感染がでたか教えてくれない、最悪の市です。</p> <p>住みにくいです。育てにくいです。おすすめできません。</p> <p>もっとこれからここで暮らす人のためにお金を使ってください。</p>
子育てについて	<p>子どもが将来住み良いまちになっていくといいと思います。</p>
次世代、若者、子育て世代がわくわくするような計画を	<p>資料に記載されている内容を読んで、これからの静岡市の計画に期待が持てますが、静岡市のこれからの担う次世代(子ども)、若者、子育て世代についても、もう少し意識的に触れてほしいと思いました。その世代がこれからのまちづくりの「主役」と示され、その世代が行政や地域の人たちと一緒に取り組んでみたいと思い、わくわくする、そのような計画にしてほしいと思います。</p>

意見のタイトル	意見要旨
子育て施策の拡充	静岡市は気候も穏やかで、とても住みやすく気に入っています。ただ、子供が産まれてから最近思うことは、他市に比べ、子供が遊べる公共施設が少ないことです。公園も駐車場が完備されている大型公園は少なく、また、藤枝市にあるれんげじスマイルホールや、焼津市にあるタントクルのような子供が元気にアグレッシブに遊べる施設があまりないような気がします。 そのような施設がより増えれば、子育て世帯にも魅力的なまちになると感じています。
子育てへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、孤立する親子や、様々なことを我慢しなくてはならない子供が多くなっていると思うので、それをフォローするような取り組みが欲しい。 ・3歳児未満の保育料をもう少し軽減してほしい。 ・子育てへの支援が手厚い自治体には、家族世帯が集まり、将来的に税収入等も増えると思うので、ぜひ強化してほしいです。
施策の優先順位について	ハコモノは最小限に抑え、教育や子育て支援に力を入れてほしい。

その他の施策	
メリットを活かした市民による「地産地消」と名所、名跡を絡める。	<ol style="list-style-type: none"> 1・数多くのウォーキングコースを色々な処に宣伝をする。(サイクリングコース・ドライブコース等々) 2・郊外の公園、施設等にも「ハローサイクル」等をより設置を(市街地には充分過ぎる位・例えば「あさはた緑地公園、今宮公園等」) 3・大谷街道の歩行者、自転車の道路の安全確保の為に整備(道幅が狭いので限界があるが静岡市内を色々歩いたが最も危険を感じた道路でした。)
	用宗・丸子や由比・蒲原に至るまで、一体感が持てるようになると嬉しい。
日本平・久能地域の活性化について	この件についても現状を把握してないので、頓珍漢な指摘になるかもしれませんが。個人的に日本平・久能海岸・久能山東照宮は観光資源として大変有望であるにも関わらず、あまり集客能力がないように感じています。日本平の山頂域の年間観光客数は170万人ほどのようですが経済効果は高くないのではないかと感じています(来ても通り過ぎる)。個人的に、日本平を東京都の高尾山のような位置づけにできないかと思ってます。日本平には既にいくつかのハイキングコースがあるようですが、これは日本平山頂に続いているものの、山頂から久能山東照宮にはロープウェイ以外のアクセス方法がありません。物理的に難しいという理由とは思いますが、日本平山頂から久能山東照宮へのトレッキングコースの整備を行い、最終的には久能海岸まで至る周遊コースを作るべきかと思っています。この周遊コースには自然(トレッキング)、歴史(久能山東照宮)、食(筍や海産物などの特産物)、交通(JRや静鉄駅からのアクセス)、地元産業や小売店などを上手く融合させながら日本平を中心とした広い範囲での「観光地域」構想が必要に思っています。私は日本平のすそのにある英和学院大学短期大学部所属の教員なので、このような構想について大学の教員や学生と共に考えていきたいと思っています。
由比・蒲原地区の活性化施策について	市内をもれなく活性化させるための策として、4次総では由比・蒲原地区のリソースを活用した活性化策に言及してほしい。 例えば、漁業や水産加工業への高付加価値化支援策や、旧東海道の歴史的財産を活用した観光産業活性化、移動支援策等。 せめて旧東海道の舗装をきれいにしてほしい。
	学校教育のデジタル化を推進してほしい。1日遊べる公園がほしいです。
静岡が誇る“静岡人力”	幼児教育、小中教育に力を入れてほしい。 計画を思案し実行するのは人間です。どんな計画も結局は一人ひとりの考え方が重要になってきます。様々な業界で活躍する“静岡人”を輩出するためにも教育はとても重要です。何事にも前向きに挑戦でき、起きた事に前向きな“意味付け”ができる人間に育つようなカリキュラムを組んで欲しいと思います。
交通インフラの再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・JRの駅を清水一草薙間に設置 ・高校/大学をJR駅から800m以内に誘致 ・南幹線-国道一号バイパス間の南北移動の改善(各交差点を3車線以上に) ・静岡南北線(新静岡IC-日本平久能山IC)の早期着工、谷津山トンネルの造成

意見のタイトル	意見要旨
静岡市を起業家が集まる街にする	<p>起業家を目指す若者に返済を不要として一千万円を起業資金として渡す。毎年10人に2030年度まで実施する。8年間で80人が起業すればその内の1%でも成功すれば8億の事業費が掛かっても元は取れる。</p>
<p>既存の考え方を捨てて対応が迫られている危機感 大手通販サイトでの購入額が各家庭内で増加する中、商店の売り上げが激減し、空き店舗が非常に目立つ、この危機的問題に総合計画が問題視・対策案を講じていないことが重大な瑕疵である。</p>	<p>本市は商業のまちとして購買力のある市民にも助けられ、シャッター街にならず持ち堪えてきた全国でも自慢である中心市街地。しかし、時代は変わり、大手通販サイトでの購入額が各家庭内で増加する中、商店の売り上げが激減し、空き店舗が非常に目立つようになってきた。この危機的問題に総合計画が問題視していないことが重大な瑕疵である。まちが活性化し拡大していく右肩上がりの状況では、エリアに分けた活性化をすれば、本市の中心市街地全体の活性化につながった。しかし密度が薄くなっていくこの時代に、継続的な同じエリアで捉えるのではなく、エリアの縮小や「線」ではなく「点線」としての整備となれば、抜本的な考え方が変わってくる。</p> <p>今の分野別で物事を見る限りは、既存事業の延長でしか物事が考察しにくい。そこで本市の商業エリアをどう繁忙していくのか…この全体像あつての「各分野別」であるべきではないのか。流ちょうな事を言っている時間はない。七間町通りの空き店舗の状況を見れば、危機感が増す。</p> <p>アリーナ計画は、過去の「約束」や「空き地」優先に東静岡に決定した。しかし、アリーナやエスパルスの球場が本通り付近や葵小学校の位置にあったらどうだろう。仙台のように駅から歩いて、アリーナへ客が流れる。当然、沿線沿いの商店は活性化が期待される。</p> <p>これこそが、商業の街としての戦略ではないのか。このような抜本的な改革を総合計画に掲載すべきである。</p>
<p>町内会活動にデジタル化の推進をすることにより町内会活動の負担軽減</p>	<p>昨年愛知県から転居して来ました。 以前住んでいた街でも町内会活動の役員負担が大きいこともあり、町内会加入者が減って来ていました。 静岡市は以前住んでいた街より、町内会費が高額であるが、住居が集合住宅であり役員選出もされないため(推測)、広報の配布始め町内会の連絡も全く有りません。 また以前住んでいた街では、静岡市のような配布物を渡す事を目的とした例会は有りませんでした。 月に一度とはいえ、参加者も設営者も大きな負担だと思います。 現在広報誌はアプリおよび市のラインアカウントを登録することにより読んでいます。同様に町内の回覧物も読めるようになれば、例会も開催する必要がなくなり、負担、費用が軽減されます。 広報誌も回覧物もアクセスできない世帯のみに配布、回付するようになれば、紙資源も印刷代も節約されます。 また町内会に加入していても知るすべの無い私のような人にも役立ちます。</p>
<p>男女共同参画の推進について</p>	<p>p11ページ構成案中、各分野の取組を推進するための基本認識に「男女共同参画の推進」を位置付けていただきありがとうございます。市のどの所属、どの施策にも関わることですので、ぜひ全職員がSDGsゴール5のジェンダー平等の意識をもって事業を進めていただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
<p>(SDGS)不用品の販売コーナーの設営</p>	<p>昨年愛知県から転居して来ました。 愛知県では家庭で不要になったがまだ充分使用に耐える物品を販売できる場所が多くので設営されています。 (持ち込みフリーマーケットのような感じ) 転居時に活用して多くの品物を販売することができました。 ほとんど使わずに新品のようなものは捨てるのも心苦しく、必要とする場所で使ってもらえれば嬉しい限りです。 まだ活用しなかったのですが、静岡市に転居してしまい残念ながら活用できませんでした。 同様の場所が設営されれば助かります。</p>
<p>大規模商業施設の誘致</p>	<p>清水区の商店街は寂れており、買い物に行ける場所が少なく、魅力がない。コストコやイケアなどの大規模店を誘致して欲しい。</p>

意見のタイトル	意見要旨
静岡マラソンの復活	2019年まで開催されておりました静岡マラソンの復活を希望します。今年に入り東京マラソンなどすこしづつ市民が走れるマラソンイベントが工夫を重ねる事で復活してきております。清水駅周辺の再開発の課題（桜病院建設）もありますが是非検討戴けるとありがたいです。
格差の解消	横断歩道整備により高齢者や子ども、旅行者など街を歩くことに不自由を感じる人が地下道にもぐったり遠回りをしなくて良いような街づくりをし、交通弱者と車利用者の間の格差解消を目指してはどうか。また、経済的困窮家庭への一時的な現金給付よりも、給食費の無償化や福祉サービスの継続的な提供等、現物給付による経済格差解消を狙ってはどうか。
農家の土地の活用について	荒れている農地の活用について、例えば竹やぶが荒れて困っている農家の土地を、タケノコ堀が好きな方に提供する 手の回らない農地を、興味のある人に提供する
	<p>都内で注目されている団体等とのコラボ・連携に期待します。例えば・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームLABOとの更なるコラボ（2015年の駿府天下泰平まつり、2014年のホビースクエア） →青葉通りの冬のイルミネーションをチームLABO監修とすれば、全国的にも注目されると考えます。 ・リアル脱出ゲーム「SCRAP」とのコラボ →東京ドームホテルと連携した謎解きと宿泊をセットとしたプランや、浜名湖パルパルでの夜の遊園地&謎解きのコラボなどが既に行われていて大変人気を集めています。いまある施設をこれまでにない視点で活用可能で、新たな客層の呼び込みにも有効と考えます。 駿河湾フェリー&土肥温泉とコラボしてミステリーフェリーツアーなんか面白そうです。 <p>日本平ホテル、日本平動物園、駿府城なんかもいい舞台になりそうです。</p> <p>新しい清水庁舎は、「次世代の区役所」となることを期待しています。 →おくやみ窓口は大変いい取組でした。あらゆる窓口の一元化をして頂けたらありがたいです。 市議会議員選挙について20代・大学生の投票率全国一位を目指してほしいです。 →市議会議員に「若者目線」を持って頂きたいです。大学構内に投票所を設置する、などは難しいのでしょうか。</p>
歩行者に優しく	桜ヶ丘の記念塔交差点の歩道橋は狭い歩道に建っていて見通しも悪くて非常に危険。撤去してスクランブルにするべきです！
清水のいろは坂	山原中継所へ行く道はくねくねして、所々景色がひらけてハイキングにもお勧めです。中継所の奥から新東名等望めます。初めて見た時は感動しました。既存の景観等もっと活用するべきです。
	市の産業振興に注力し、製造品出荷額や市内GDPが県内1位を維持していけるようにしてもらいたいです。個人的には、中山間地の振興に期待しています。
新清水駅周辺の活性化	静岡に訪れて来てくれた人達が施設だけの訪問でなく、まわりの商店街にも立ち寄りたいて思ってもらえる様な街づくり。特に新清水駅周辺はとてもさみしく、暗いです。魚もおいしい清水に住みたい！また来たい！と思ってもらえる様な街づくり！！
スマイルハンティング	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡市観光大使を増やす。（県外へ進学した学生に静岡市をアピールしてもらうことでつながりを実感。 ・視察旅行先を首都圏以外で模索する企業が多い。静岡市の企業と連携し、視察観光客を増やす。
アントレプレナーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・起業する若者を支援することで、個人事業主が増え、まちづくりに熱意がある市民が増える。 ・データサイエンス学部の学生を雇い情報収集と分析に力を入れることで、起業へのヒントを得る。
スノーボード場と登山	<ul style="list-style-type: none"> ・スノーボードはお金がかかる。静岡市内の山にスノーボードを楽しむ施設を作る。 ・山登りやハイキングコースを増やし、県外からのお客さんを増やす。

意見のタイトル	意見要旨
里山プチ留学	<ul style="list-style-type: none"> 英語特区を設置。海外へ語学留学しなくても、静岡市で留学気分を味わえれば注目される。人口減少が進む過疎地にホームステイ型の英会話地域を創設する。
空いている空間を活用	<ul style="list-style-type: none"> 塾に行かなくても、学校を活用しプログラミングやアプリ作成や投資など学べたらいいな 暇そうな飲食店を利用して、こども食堂を開きたい。
ハートリボン	<ul style="list-style-type: none"> 沼上清掃工場にゴミを運搬する感覚で、車で食材も集積してフードバンクに寄与したい。 高齢者と子どもをつなげる、静岡型ハロウィンを開催。
共生社会の実現に向けインクルーシブ教育を！	<p>インクルーシブ教育はすべての子どもが同じ教室で学ぶことです。静岡市も2030年までの計画を立てています。生涯の種別、重症度で分けず、希望するすべての子を同じ教室で、専門の支援を受けながら学べるようになることが理想と考えます。</p> <p>現在、我が子は人工呼吸器を使いながら、地域の学校へ通っています。障害のある子にとってもない子にとってもよいことだと実感しています。</p> <p>お互いに自然に接することができたり、自分が出来ることを頑張れば良いのだとみんなが自然に思える教室の空気ができ、自己肯定感を育てることができるとも感じています。</p> <p>大人は障がい者を一方的に支えているだけだと思っている方が多いと思いますが、実はgive&takeの関係で、知らないうちに目に見えない大事なことに気づかされ、心が豊かになる人もいることを知ってもらいたいです。</p> <p>他にも良いと思うことがいろいろあり、インクルーシブ教育を積極的に取り組むことはいじめや不登校、多文化共生や高齢化社会の問題にまで影響があるのではないかと感じています。</p> <p>これからの心の時代にインクルーシブ教育の取り組みは大事であり、インクルーシブ教育の中で育った子供たちの作る未来は、自然と共生社会になるものと期待できます。</p> <p>また、学校のバリアフリー化もインクルーシブ教育において大事だと思っています。生徒だけでなく、先生や訪問者がどんな人でも受け入れられる、共生できる学校づくりが子供たちの心を育むものと思っています。</p>
なし	幼稚園の頃「あおいくん」のイラストを見た時の恐ろしさが忘れられません。静岡のイメージキャラクターを公募してみてもいいかでしょうか。
「駿府城復元計画」	結局、世界から注目されるおいては、「城」などの観光スポットが必須であるように思います。いくら人物にフォーカスしても、海外から特定の武将が称賛されているケースはあまり聞いたことがありません。目で見て感動できる「観光物」が必要だと思います。そのために、物理的にせよ、テクノロジー（VR）を使うにせよ、圧倒的インパクトのある観光名所を作ってもらいたいです
静岡マラソンの開催	静岡市民の健康のためにも、コロナで大変な状況になっている飲食店や宿泊施設、お土産屋さんや交通機関などの経済効果も含めてとても大切であると思います。

意見のタイトル	意見要旨
静岡マラソンの継続的な開催のお願い、またオクシズの自然を活かした大会の新設	<p>■静岡マラソンの継続的な開催のお願い 私事になりますが、静岡マラソンの前身である静岡駿府マラソン（2010年開催）を友人に誘われ走ったことをきっかけに運動する習慣ができて、それまでの太めな体型から標準から少し痩せ型の体型に変わり、心身共に健康で充実した生活ができています。家康公四百年祭に関係し、静岡マラソン2014が開催された際には、静岡市でフルマラソンの大会が開催されることを大変嬉しく思いました。走りやすいコースであることから回を重ねるごとに人気の大会となり、県外からの参加者も多かったものと思います。しかし、新型コロナウイルス感染症により2020-2022年と3年連続の中止となってしまいました。是非とも2023年の大会は開催いただけるようお願いしたいです。第3次静岡市総合計画には静岡マラソンの開催が記載されておりましたが、第4次計画でも主要な施策の1つとして実施をお願いします。</p> <p>■オクシズの自然を活かした大会の新設 静岡マラソンは全国から注目される大会ですが、ランニングなどのスポーツ大会をオクシズの自然を活かして開催できないでしょうか。コースがハードで競技性の高いもの、または、ゆったりと楽しめる観光的なものなど。自然の中での運動は体だけでなく心にも良い効果があるとされており、メンタルの不調を抱える方が多い現代に求められる催しだと思います。都市型マラソンの優良大会である静岡マラソンに並ぶような大会ができれば一市民として誇らしいですし、相乗効果もあるかと思えます。</p>
学校図書館の充実について	<p>第3次総合計画においては、学校司書の待遇改善や市教育センター学校図書館支援室の設置が実施され、標記の施策が画期的に前進したことを私は評価しています。折しも新型コロナウイルス感染の影響で急速にすすみつつあるICT教育やGIGAスクール構想のもと、子どもたちの情報拠点である学校図書館は、多様なメディアによる資料の収集・提供が期待されることとなりました。学校図書館教育は情報教育の分野と協力して、子どもたちのメディアリテラシーや情報リテラシーの教育を担っていく存在になるのではないでしょうか。</p> <p>通信環境の整備や電子資料への目配りなどが大切ですが、最も重要なのは学校司書が専任・専門・正規の条件で活躍できるような待遇の改善です。子どもたちの「読みたい知りたい」を応援し、教師の授業づくりを支えるメディア専門職としての学校司書がいる学校図書館は、学び続ける市民を育成する基礎となります。第4次総合計画では、「まなびの文化の地域づくり」が提唱されていますが、その実現の一助を担う学校図書館に大いに目を向けていただけるようお願いいたします。</p>

情報発信	
静岡市の強みを活かしたまちづくりについて	<p>静岡市には多くの魅力的な面や取り組みがあるにも関わらず、それをPRする力が不足していると思っています。</p> <p>例えば資料に記載がある待機児童4年連続ゼロというのは子育て世代からすればとても魅力的で、そういった面で静岡市への移住を検討する方や移住の決め手になる方もいるかと思えます。しかしこの成果を多くの市民が知っているかということには疑問に感じます。市民が知らないことを他市の方が知っているのでしょうか。</p> <p>また、これも例になるのですが静岡市には他都市が羨むプラモデルという大きな武器があります。これを活かしたモニュメントの作成やプラモデルデザインの活用も行われていますが、これが他市からの集客力につながるかは疑問に感じます。モニュメントの設置箇所も多くの人が通る場所からは少し外れています。1つの提案ですが、市内の模型業者に呼びかけ、静岡市でしか買えない限定のプラモデルを作れば模型の町をさらにアピールでき、集客力も増すのではないでしょうか。</p> <p>上記の内容は一例ですが、静岡市には他市が羨む多くの魅力的な強みがあるのにも関わらず、静岡人の性質でしょうか、それをうまくPRできず、活かしていない、もったいないというのが現状だと思います。繰り返しになりますが、静岡市には多くの魅力的な強みがあります。それを活用し、集客力がある街づくりを期待します。</p>

施設整備	
	現在批判されているハコモノ行政と言われないような、今あるものをうまく使うという精神を期待したい。

意見のタイトル	意見要旨
スタジアム	
サッカースタジアム新設による複合都市機能の整備	静岡らしさの一つであるサッカー文化を活かすことを提案します。清水エスパルスは地域の誇りであり、替えの効かない静岡市の地域資源です。この地域資源を最大限に活かし「世界に輝く静岡」を4次総で築いていくことを提案します。2013年のJリーグライセンス制度導入後、新スタジアムは懸案事項であり待ったなしです。クラブからも何度か市に要望され、市民の間でも数年前に「新サッカースタジアムを考える会」が立ち上がる等、機運が上がってきています。他自治体でも、広島市、長崎市、山形市等で計画が実行段階にあります。特に広島市の計画（*添付資料）はサッカーだけの施設にとどまらず、にぎわい機能、防災機能等の複合機能化で都市再生の起爆剤として計画されています。これの静岡市版（＝静岡らしさを最大限に活かしたもの）をクラブ、市民、民間事業者と連携して築いていく事こそ「世界に輝く静岡」に必要な最優先事項だと思えます。ハコモノを作った場合、維持費が課題になりますが、クラブの強化はクラブが行いますし、情報発信も各メディアがそれぞれ報道してくれます。よく「年間20試合程度しかない...」とも言われますが、その各試合で数万単位で人が行き来するソフトは静岡市には他にありません。大きな経済効果が期待できますし、そのような考え方で試合日以外も賑わう仕組みを複合機能化できれば...と思えます。現在候補に挙がっている清水駅前のENEOS所有地であれば津波対策の防災機能も複合できればより広く理解を得られると思えます。是非、4次総で早期に実現できるようお願いします。
みんなで作る新サッカースタジアム建設	清水駅前のENEOS遊休地に新サッカー専用スタジアムを建設し、街の活性化及び人口流出を止める
新スタジアムについて	IAIスタジアム日本平は素晴らしいスタジアムですが、Jリーグの基準には不足している部分が多々あり、市民の多くが新スタジアムの建設を望んでいます。建設費、維持費ともに莫大な金額の海洋施設よりも新スタジアムをお願いしたいです。市長の英断に期待いたします。
★JR清水駅前の新スタジアム構想実現	約20年前から新スタジアム構想の話が出ています。Jリーグ他クラブについては、新スタジアム構想の話が挙がってから約7年で実現しているケースが多いです。市民・県民が誇れる、環境に優しい、防災機能含め多機能を持った次世代型スタジアムの早期建設を期待しています。
新スタジアム早期実現を	全国的に静岡といえばサッカーであろう。静岡（とくに清水）＝海洋文化都市、などと想起する人がどれくらいいるのでしょうか。少なくともサッカーを上回ることはないであろう。どう考えても水族館より新スタジアムが先である。第4次総に新スタジアムのかげからも載っていないのが非常に残念である。いまごろ検討委員会の設置などと言っていないで、そんなものは3次でやっておくべきだった。日本平スタジアムに大型映像装置が設置されたのもJ1で1,2を争う遅さだった。新スタジアム設立も同じようなスピード感である。遺憾だ。
JR清水駅近くのエネオス遊休地について	JR清水駅近くのエネオス遊休地を盛土してスタジアムを作るついでに、市内に散らばる高校を清水駅周辺に固めたら通学が便利になる（公立高校は辺鄙な場所にあるので通学が不便だ）
その他	
大好きな静岡	静岡は大好きな街です。これからもよりよい市になることを願っています。
市外の人からも羨ましがられるまちに	他市の人、海外の人が、うらやましいと感じるくらいの魅力あるまちになると嬉しい。
一部の意見に振り回されないでください。	市としてブレずに計画を進めてください。
素敵なまちづくり	私は静岡が大好きです。より一層、静岡市の魅力が県内外問わず全国の皆様に伝わっていくことを願っております。
	3次総の単なる焼き直しにならないことを望みます。

意見のタイトル	意見要旨
市民参加型の取り組み	行政のみとか、行政と民間との連携とかだけでなく、市民を巻き込んだ施策をやってほしい。静岡市を作るのは市民なんだというシビックプライドの醸成。
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でこれまでの日常が変化していく中、時代の流れを柔軟に取り組むよう心掛けてほしい
計画全般	静岡市の資源を最大限に活かした取組を進めてほしい
	着実に市民の声を取り入れながら推進してほしい
人と人との交流の場の提供	コロナ過やデジタル化の進行によって人と人との関わり合いが減少しているため、人同士のコミュニケーションの場を提供していただきたい。そうすることで助け合いの精神も育まれ、災害時にも生きてくると思う。
いつも、ありがとうございます。	道路の工事や駅の修繕等、常に目に付くところで安全性や利便性のための改善がされているのを感じます。それだけじゃないですけど、いつも私たちのくらしのため、頑張ってください、ありがとうございます。まちづくりのリーダーとして今後も期待しています。よろしくをお願いします！

分野別部会 検討状況

	部会	担当局	検討状況	
1	観光・交流	観光交流文化局	<p>【現状】</p> <p>①世界に誇れる地域資源を有しているが、さらに磨き上げていく必要がある。</p> <p>②地域資源の情報発信とプロモーションを行っているが、利用者のニーズに合わせた情報発信が必要である。</p> <p>③新型コロナ拡大により、国内外からの来訪者は減少しており、新たな誘客方法や交流の仕方を検討していく必要がある。</p> <p>④来訪者が再び訪れたいとする受入態勢づくりを進めたが、社会情勢の変化による人々のニーズの多様化に合わせたコンテンツの提供が求められている。</p> <p>⑤中部横断自動車道が整備された。今後日の出地区の港湾整備も進められるなど、市内交通のインフラが整備されつつあり、市内への誘客がより促進されることが期待される。</p> <p>⑥3区のランドデザインに沿った、まちなかの賑わい創出が求められている。</p> <p>【課題】</p> <p>①地域資源を活かした静岡市ならではのサービスの提供</p> <p>②国内外に向けた積極的かつ効果的な情報発信とプロモーションの実施</p> <p>③社会情勢の変化に対応した国内外からの誘客及び交流の推進</p> <p>④観光客が再訪したいとする受入態勢の整備と再訪を促す取組みの推進</p> <p>⑤3区のランドデザインに沿った、都心・副都心を中心とした賑わいづくり</p>	<p>【2030の目指す姿】</p> <p>国内外の多くの人々を惹きつけ、多彩な交流や賑わいが生まれるまちを実現します。</p> <p>【分野の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市が有する地域資源を磨き上げ、情報発信し、国内外から多くの人々を呼び込む。 ・本市に訪れた人々が、地域資源に触れたり、市民と交流することで交流人口・関係人口の拡大を図る。 ・国内外からの来訪によって賑わいを生み、地域経済の活性化を図る。
2	農林水産	経済局	<p>【現状】</p> <p>①主要農産物のお茶の価格低迷とウッドショックによる木材価格の高騰</p> <p>②農林水産業従事者の減少・高齢化・後継者不足の進行</p> <p>③小規模で生産性の低い農地</p> <p>④自然災害の激甚化による農林水産施設の被害の増加</p> <p>⑤中山間地域（オクシズ）の地域活力の低下</p> <p>⑥低水準な水産資源動向</p> <p>【課題】</p> <p>①消費者ニーズに合わせた商品の高付加価値化</p> <p>②適正な木材価格の維持</p> <p>③地産地消と海外輸出による消費の拡大</p> <p>④中部横断自動車道や清水港を活用した農林水産物の販路拡大</p> <p>⑤担い手の育成・確保</p> <p>⑥農林水産業従事者の所得の向上</p> <p>⑦作業効率の高い生産基盤の整備</p> <p>⑧スマート農業など先端技術の導入による作業効率の向上</p> <p>⑨農林水産施設の機能強化</p> <p>⑩中山間地域における担い手の確保・地域コミュニティの維持</p> <p>⑪地球環境に配慮した農林水産業の推進</p>	<p>【2030の目指す姿】</p> <p>南アルプスから駿河湾までの豊かな地域資源を活かし、持続可能な農林水産業を営める環境を実現します。</p> <p>【分野の役割】</p> <p>地域資源を活かすことにより多様な担い手が夢を持って農林水産業を営める環境づくりが求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「静岡市ブランド」の強化 ・「オクシズ」「しずまえ」の知名度の強化 ・農林水産業従事者の組織化及び所得の向上 ・生産基盤の整備 ・地域資源を活用した取組への支援 ・公益的機能の保全・維持

3	商工・物流	経済局	<p>【現状】</p> <p>①モノづくり産業など、特色ある産業が地域に根付いている。 ②デジタル化の進展をはじめ、社会経済情勢の変化が激しい。 ③人口減少による地域の経済活力の低下が懸念される。 ④清水港の機能強化が進んでいる。 ⑤労働生産人口の減少が進んでいる。</p> <p>【課題】</p> <p>①地域の産業特性の活用 ②時代の変化や社会課題に適応した事業の創出 ③経営力の強化や販路の開拓等による市内企業の生産性の向上 ④清水港などの社会基盤を活用した広域物流の実現 ⑤人材の育成と良質な就労環境の確保</p>	<p>【2030の目指す姿】</p> <p>時代の変化に対応しながら地域資源を磨き上げるとともに、企業と人とのパートナーシップにより、豊かに経済成長を続けるまちを実現します。</p> <p>【分野の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時代の変化を捉え、地域の特性や強みを活かすことで、新事業の創出や成長分野の強化を行う。 経営力の強化や販路開拓により、市内企業の生産性の向上を図る。 社会基盤の整備を活かし、産業を支える物流の効率化を促進する。 雇用の確保に向け、多様な人材の活用を促進する。
4	文化・スポーツ	観光交流文化局	<p>【現状】</p> <p>①歴史に触れ魅力を発信する拠点整備は進んでいるが、市民の歴史に対する関心が高まっていない。 ②幅広い世代が文化に触れる機会が増えたが、市民の文化に対する関心が高まっていない。 ③静岡市民文化会館をはじめ、文化施設の老朽化、耐震化対策を行うとともに、市民の自発的な文化活動等を支援する機能を付加する施設整備が求められている。 ④目標には届いていないが、スポーツ実施率は増加している。また、世界規模の大会での合宿誘致等の事業を通じて、スポーツに対する市民の意識醸成が図られた。 ⑤生涯学習の実施率は向上しているが、その成果を地域で十分活かしてきていない。また、生涯学習施設の利用者や平均稼働率は減少傾向にある。</p> <p>【課題】</p> <p>○歴史・文化の国内外への魅力発信によるシビックプライドの醸成と、保存・継承及び活用 ○文化を身近に触れる機会、場の創出と、文化を通じた交流と賑わいの創出 ○日常的にスポーツに親しむための機会の創出や環境整備と、スポーツを活かした交流等の推進 ○誰もが気軽に学びやすい環境の整備と、学びの成果を活かすための支援</p>	<p>【2030の目指す姿】</p> <p>歴史に育まれてきた多彩な静岡の文化を国内外へ発信し、一人ひとりが輝き続けるまちを実現します。</p> <p>【分野の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史文化の保存・継承及び活用を進めるとともに、文化活動の振興・支援を通して「しずおか文化」の魅力を国内外に情報発信し、市民の意識醸成を図る。 プロスポーツに触れる機会の創出など、誰もが日常的にスポーツに親しむための環境整備を進めるとともに、スポーツが持つ活力を活かした地域の活性化を図る。 多様なニーズに応じた学びを充実させ、まちづくりを担う人材の育成を図る。
5	子ども・教育	子ども未来局 教育局	<p>【現状】</p> <p>①society5.0時代の到来、グローバル化の進展など、子ども・若者を取り巻く社会変化が加速的に進行している。 ②困難を抱える子どもの問題が近年顕在化し、複雑化、多様化している。 （ひきこもり、いじめ、不登校、ヤングケアラー、ひとり親家庭、貧困、子どもの居場所、外国につながる子ども、医療的ケア児、社会的養護等） ③少子高齢化、核家族化、地域のつながりの希薄化により、地域による子育て支援活動や地域の教育環境に変化が見られる。 ④保育、教育に係る環境整備について、新しい時代に対応したハード整備が進められている一方で、こども園、保育所、学校等において安定的な保育、教育を提供するための人材が不足している。</p> <p>【課題】</p> <p>①変化の激しい社会にも適応し、自ら考え、行動できる子ども・若者を育成する必要がある。 ②困難を有する子ども・若者への個々に応じたよりきめ細かな対応が必要である。 ③学校・家庭・地域等が一層連携し、子ども、若者、子育て家庭を支える環境・体制を整備する必要がある。 ④安全安心な保育・教育のための環境整備と新規人材の確保・育成が必要である。</p>	<p>【2030の目指す姿】</p> <p>すべての子ども・若者が、夢や希望をもって、健やかで、たくましく、しなやかに育つまちを実現します。</p> <p>【分野の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> 激しい社会変化の中でも、夢の実現に向かって自ら未来を切り拓く力を持った子ども・若者の育成 子ども・若者を誰一人取り残すことのない成長段階に応じた多様な支援の推進 学校や園、家庭、地域が連携し、保護者・家庭が孤立せず安心して子どもを産み、育てられるための支援の推進 子ども・若者が安全安心で生き活きと育つ環境・体制の整備

6	都市・交通	都市局	<p>【現状】</p> <p>①静岡都心、清水都心への来訪者が減少し、まちなかの賑わいが低下 ②ライフスタイルの多様化や生産年齢人口の減少により公共交通の維持が困難 ③市民の憩いの場である公園が不足しており、利活用について新たなニーズが生まれている。 ④建築物の耐震化や環境負荷低減への対応が求められている。</p> <p>【課題】</p> <p>①静岡都心、清水都心、草薙・東静岡副都心において、地域と一体となった魅力的で賑わいのあるまちづくりが必要 ②誰もが利用しやすい、交通体系の構築が必要 ③誰もが楽しめる公園整備、多様化するニーズに合った活用方法の検討が必要 ④環境にやさしく、安全で快適な建築物の普及が必要</p>	<p>【2030の目指す姿】</p> <p>快適で質の高いまちの拠点と、住環境・交通環境の充実による、誰もが暮らしたい・訪れたい“人中心”のまちを実現します。</p> <p>【分野の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリーン化やデジタル化の推進、新たな生活様式への対応など、コンパクトでゆとりとにぎわいのある人中心のまちづくりを推進し、誰もが安心して滞在できる空間を創出する。 ・多様な交流や新しい価値観を創造する「公民共創」の考え方により、社会や地域の課題解決に取り組む。 ・市民、来訪者が快適に移動できるよう、超高齢社会、脱炭素社会に対応し、地域の暮らしを支える交通ネットワーク・システムの構築を目指す。 ・デジタル社会の進展に合わせ、新たなデジタル技術の活用によるまちづくりを効果的に進める。 ・市民や来訪者を惹きつける、快適で良好な景観を形成する緑のあふれるまちづくりを目指す。 ・市民の「暮らしの安心」「暮らしの充実」につながる建築物の耐震化や脱炭素社会を実現する環境にやさしく快適な公共施設等の整備を進める。
7	社会基盤	建設局 上下水道局	<p>【現状】</p> <p>社会基盤施設の重要な役割を保つ。</p> <p>①広域道路ネットワークの整備が着実に進展している。 ②生活環境の安全性・快適性の確保に向けた整備、維持管理を進めている。 ③老朽化した社会基盤施設の増大が見込まれるなか、高齢化や人口減少などに伴い、税金や水道料金収入などの減少が予測されている。 ④気候変動の影響により豪雨などの自然災害が年々激甚化・頻発化している。 ⑤建設業では、60歳以上の従事者の将来における大量離職が見込まれる中、それを補う若手入職者の数が不十分。 ⑥社会基盤施設に関する多様なデータを保有する一方、連携した活用が十分にされていない。</p> <p>【課題】</p> <p>整備、維持管理、更新の計画的な推進が必要。</p> <p>①高規格道路へのアクセス改善や主要幹線道路の渋滞緩和・解消が求められている。 ②引き続き、誰もが安全・安心に利用できる生活環境の整備が必要。 ③アセットマネジメント手法を活用した老朽化対策を進め、選択と集中により維持管理費を抑制しつつ、効率的かつ持続的な施設管理を進めていくことが必要。 ④自然災害による被害を防止し、市民生活への影響を最小限とするよう、社会基盤の強靱化や早期復興を可能とする体制づくりが必要。 ⑤建設業における将来の担い手不足に対し、若手入職者の確保や工事の省力化・自動化が求められている。 ⑥社会基盤施設に関する既存データの一元化に取り組むとともに、人流・物流・地形・気象などのデータとの連携強化に取り組む必要がある。</p>	<p>【2030の目指す姿】</p> <p>経済の好循環を支え、誰もが安全で幸せに暮らすことができる持続可能な社会基盤を有するまち</p> <p>【分野の役割】</p> <p>道路、河川、上下水道などの社会基盤を整備し、適切に維持管理することで、市民の安全で安心な生活や活発な経済活動を支えるとともに、地域社会の快適性・利便性が向上することにより、幸せに暮らし続けることができるまちを実現する。</p>

8	健康・福祉	保健福祉長寿局	<p>【現状】</p> <p>①地域の連帯感、支え合いの力の低下 ②高齢化率は30%を超えており、一人暮らしの高齢者や認知症高齢者が増加 ③障がいのある人が増加すると共に、発達障がい・医療的ケア児者・難病など障がいの範囲が拡大 ④生活様式の多様化により、疾病構造に変化が生じてい</p> <p>【課題】</p> <p>①市民・企業・行政等が協働して問題を解決する仕組みづくりや、人材の育成 ②複雑化・複合化した問題・課題に対応する、重層的支援体制の構築 ③生涯活躍・生涯挑戦できる、「再チャレンジできるまちづくり」の推進 ④地域包括ケアシステムの深化と、認知症高齢者を支える体制づくり ⑤高齢者の社会参加を促進する環境づくり、中山間地等における交通弱者への対応 ⑥障がいのある人への差別解消や障がいへの理解促進、互いに尊重し支え合う地域の体制づくり、様々な障がいに応じたきめ細かな支援 ⑦高齢化の進行に伴う、障がいのある人の8050問題や親亡き後への対応 ⑧死亡者の多いがんや心疾患・脳血管疾患など循環器系疾病への対応 ⑨新興感染症等にも対応した感染症対策、生活習慣病予防等の推進、メンタルヘルス対策・相談体制の充実、食の安全対策 ⑩在宅医療の推進体制の整備、効率的で質の高い地域医療体制の充実</p>	<p>【2030の目指す姿】</p> <p>誰もが健やかに自分らしく地域で共に生きることのできるまちの実現</p> <p>【分野の役割】</p> <p>・高齢者や障がい者など支えを必要としている人が、住み慣れた地域で生き活きと自分らしく暮らしていけるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される体制を、地域住民と関係機関、行政との連携により、構築し維持すること。 ・市民の皆さんが、こころと身体の健康を維持し、安心して暮らし続けられるよう、健康教育や保健指導、介護予防の充実を図るとともに、救急医療や新興感染症等に対応する体制の充実を図ること。</p>
9	防災・消防	危機管理総室 消防局	<p>【現状】</p> <p>複雑多様化する災害が発生している。 ①巨大地震による甚大な被害が想定されている。 ②集中豪雨などによる大規模な風水害が多発している。 ③コロナ禍により減少していた災害出動件数が増加傾向にある。 ④テロなどの武力攻撃事態、新たな感染症などの様々な危機が懸念されている。</p> <p>【課題】</p> <p>複雑多様化する災害から被害を減らすため市民一丸となった体制や対策が必要 ①「自助」「共助」「公助」により「防災・減災力」の向上が求められる。 ②土砂災害対策などの整備を進めるとともに、市民に対して災害情報が確実に伝わる情報伝達体制の強化が求められている。 ③施設、装備及び救命体制の充実など、救急や救助を含めた消防力の向上が求められている。 ④あらゆる危機にも対応できる体制の整備が必要である。</p>	<p>【2030の目指す姿】</p> <p>災害から市民の生命や財産を守り、安全・安心に暮らせるまちを実現します。</p> <p>【分野の役割】</p> <p>「自助」「共助」「公助」がそれぞれ最大限の役割を果たし、いかなる災害に対しても生命を守ることを最優先に、可能な限り被害を軽減するため、すべての主体が、協力・連携して災害に備え、災害に立ち向かうまちづくりを進める。</p>
10	生活・環境	環境局 市民局	<p>【現状】</p> <p>・地球温暖化の進行による風水害の激甚化に加え、国際社会における気候変動への対応が加速化している。 ・世界に認められた南アルプスをはじめ、多様な自然を有している。 ・空き巣や自転車盗など身近な犯罪や交通事故が発生している。 また、消費行動の多様化により、消費者トラブルが複雑化している。 ・市民一人1日当たりのごみ総排出量は横ばいで、各清掃施設の経年劣化も進んでいる</p> <p>【課題】</p> <p>・環境と経済の好循環による、2050年カーボンニュートラルの達成。 ・自然から享受する恵みに対する理解の促進と、自然を誇り守る心の醸成。 ・地域・学校・家庭等での防犯活動や消費者被害防止に対する取組。 ・社会や環境等に配慮したライフスタイルへの変革に向けた取組と、安定的な廃棄物処理体制の構築。</p>	<p>【2030の目指す姿】</p> <p>人と自然が共生し、将来にわたり豊かな営みを続けられるまちを実現します。</p> <p>【分野の役割】</p> <p>・市民、企業等様々な主体が連携し、経済・社会・環境の調和した、持続可能なまちをつくる。 ・世界にも誇れる地域資源のすばらしさを国内外に伝えるとともに、その恩恵を将来にわたり享受できるようにする。 ・市民一人ひとりが自立し、地域の一員として互いに助け合う、安心して暮らせるまちをつくる。</p>

Voice of しずおか市民討議会とは…
 無作為抽出された市民に案内状を発送し、参加申し込みされた方々が集まって、議題について話し合う市民参画手続手法のひとつ。ドイツの「プラーヌクスツェレ」という市民参画手法を参考にしたもので、普段意見を表明する機会が少なかった市民の皆さんの「声なき声」を聴くことができる効果的な手法として、2007年に静岡青年会議所が実施。
 現在は、静岡市が主催し、企画・運営をVoice of しずおか市民等議会実行委員会が担っている。

タイトル：みんなで話そう未来のシズオカ
 ～キラメク静岡☆作戦会議～
 内容：これまでの8年間を振り返るとともに、これからどんな静岡市になって欲しいか、したいか議論する
 実施日：令和4年3月26日(土) 10:00～17:00
 参加者：26名(10代～80代の市民)



【得票数の多かった意見】

	8年後にこうなったらいいな	どうやったら作戦が成功できるか
1位 (9票)	テーマパークなどの設置(家族向け)	インター出口に道の駅設置(特産品販売、テーマパーク、グランピングなど)
2位 (8票)	観光施設・イベントの魅力をSNSやマスコミを通じて時流に乗るような発信	「T i k t o k」「インスタ」等で「#」をつけて全国に発信しながら、クラウドファンディングを募り環境整備し、「これなら参加したい!」と思ってもらえるツアーをやる
3位 (6票)	特別なイベントではなく日常生活のなかで交流できる機会を増やす(交流)	町内会の内外の連携をLINEなどでより連携情報発信、コミュニティを充実させることで交流を向上させる。

【全体意見まとめ】

市民討議会ではどんな静岡にしたいか、どんな取り組みが必要かを議論した意見をまとめると下記のとおり整理できる。

意見まとめ
交流人口の拡大 (道の駅の設定、観光地のイルミネーション、自然を活かした、大道芸等のイベントなど)
経済の活性化 (企業誘致、雇用拡大、子育て世代の活躍支援、第1次産業の活性化、商店街の活性化など)
安全安心な生活 (災害に負けないまちづくりなど)
I T を活用した情報発信 (SNSを活用した効果的な情報発信、自治会などの地元コミュニティでのSNSの活用など)

4次総での対応の方向性
➡ 重点目標(人口活力)、(仮)7つの柱
➡ 重点目標(人口活力)、(仮)7つの柱
➡ (仮)7つの柱(安全安心)
➡ 基本計画：横断的視点

グループ名	テーマ①：8年後こうなったらいいな!	テーマ②：どうやったら作戦が成功できるか	票数
チーム 「海鮮丼」	静岡祭り等のイベントでみんなを巻き込んでいろんな仮装をして非日常を楽しむ	学生中心にして企画、企業や自治体に協力してもらう	1
	日本平や駿府城等の観光地でイルミネーションを増やして視覚的にキラキラ	観光地などのライトアップ、企業の寄付を募る、コンテストで競い合う	0
	おでん通りのような商店街を駅近やIC等の交通の便が良い場所につくる	じまん市のような産直をICの近くに造る	1
	学校や仕事が増えて人が増える	人口増加、大学をつくる、企業を呼び込む	1
	郊外の道を整備	—	—
チーム 「生桜えび」	大学生と若い人が県内で生活(働く)できるための工夫をする(経済活性化)	ライブや若者向けイベントを充実させていくことで若者が集まる街が作れる	4
	観光施設の統廃合を図り、同じ場所で色々楽しめる工夫をする(観光イベント)	日本平等にアウトドア、温泉、グルメ等のスポットをつくり人が集まる場所とする	2
	特別なイベントではなく日常生活のなかで交流できる機会を増やす(交流)	町内会の内外の連携をLINEなどでより連携情報発信、コミュニティを充実させることで交流を向上させる。	6
	預けたいときに子供を預けられるシステムが出来て若い親の活動が活性化(子育て)		—
	小型のコミュニティバスが走ると老人や子供が移動しやすくなる(交通)	—	—
チーム 「うす茶糖」	観光施設・イベントの魅力をSNSやマスコミを通じて時流に乗るような発信	「TikTok」「Instagram」等で「#」をつけて全国に発信しながら、クラウドファンディングを募り環境整備し、「これなら参加したい!」と思ってもらえるツアーをやる	8
	子育て・人に優しい街・制度づくり学生に向けた奨学金の充実・学校の整備	有名人を使い、交通マナーの周知徹底を図る。インフラ整備のために、市、金融機関、企業などに協力をつのる。当事者の語り合う場所を設ける。	5
	第一次産業従事者の努力を褒め利益となるような工夫、肉体的な負担軽減		4
	おいしい水と空気のために個人と企業の意識をアップ、行政のチェック	第1次産業の良さをアピールする。JA・市・企業が魅力を学生などにセミナーを開き関心を持ってもらう。地域や学校でも周知、当事者同士での意見交換会実施など	4
	事故を無くすために交通ルール・マナーの周知、歩道・自転車道の整備		—
チーム 「生しらす」	観光客を増やすために「はじめしゃちょー」を観光大使にする	はじめしゃちょーに静岡をPRしてもらうために祭りに出てもらったり、市長を始め有名な人にアピールしてもらう	5
	大道芸や静岡まつりなどの伝統を発信する		2
	安心安全に暮らせる仕組みをつくり人口増加を図る	スポーツチャンバラの普及(学校体育への取り入れ、年齢別の大会などを企画する)	5
	自治会の再生		—
	若者が活躍できる市にするために魅力的な働き口、場所を充実させる		—
チーム 「橙」	人が集まる仕組みづくり(三保を起点に、田舎を含めて)	三保東海大室内プールを使用し、海水の釣り堀をつくる(養殖の魚を利用)	1
	年齢問わず働ける企業誘致(賃金アップ)	SNSの活発な利用(運営は観光地によって臨機応変に対応)	2
	Maasシステムの充実(のぞみ、雨の日のバス)	インター出口に道の駅設置(特産品販売、テーマパーク、グランピングなど)	9
	県内外の人への静岡のPR	目安箱の設置(ネット上やスーパーなどに設置しスーパーと連携しポイント制へ)	3
	テーマパークの設置(家族向け)	バスの本数を増やす、のぞみを静岡駅に停まらせる	4
チーム 「わさびソフト」	暮らしやすいまちづくり	—	—
	①インフラの整備(自然の整備、遊び場所、道路、移動手段など)	先端最新技術を使って、自然の探査、マップ作り	4
	②活気のあるまち(商店街、伝統文化、若者が増えるまち)	先端のSNSの活用 + 元からの人のつながり	5
	③安全安心な街(災害に負けないまち、子育て、老後)	災害対策・安全安心対策、顔の見える付き合い、相談しやすい場所	4
	④労働環境、給料、物価、休暇	働き方の効率化、教育、訓練	—

4次総全体スケジュール

今ここ

資料6

		令和3年度											令和4年度												
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
策定会議・広報		策定方針決定					基本構想・基本計画 素案作成						広報8月号(パブコメ内容) ★ 第7回 ● 第8回 ● 第9回 ● 第10回 ● 第11回 ● (第12回) ○ (第13回) ○ (第14回) ○ 広報3月号(4次総概要) ★												
基本構想		構成検討 内容検討					基本構想 骨子作成						市民意見、有識者意見反映 文章化作業 修正作業 基本構想・基本計画 11月議会 議案上程 ※10月中旬議案が切												
基本計画	1・4章 横断的視点 総合戦略 重点目標	位置付け 体系検討					構成作成						市民意見、有識者意見反映 文章化作業 修正作業 パブリックコメント② 期間：8月1日～31日(仮)												
	5章 7つの柱(仮)	3次総評価 時代潮流反映					ロジックモデル作成						内容組み込み検討 指標検討 修正作業 ローリングに合わせて 事業整理												
	6章 分野別の 取組	現状分析 目指す姿検討					目的-手段検討 成果指標検討						事業検討 文章化作業 修正作業 ローリングに合わせて 事業整理												
	7・9章 各区の取組 都市構造軸 基本認識	検討体制検討					策定体制決定						方向性検討 指標検討 修正作業 事業検討 文章化作業 骨子作成												
実施計画		分野別体系 検討・決定					現状分析 課題抽出						内容検討 文章化作業 骨子作成 事業検討 文章化・予算化 2月議会 報告												
冊子作成		3次総評価 各区意見交換					3次総評価 各区意見交換						方向性検討 発注・制作 冊子完成 ●												
プロジェクトチーム		PT人選検討					主に7つの柱の 各作業をフォロー						各作業をフォロー												
策定会議 議題・報告事項		【第1回】 ・基本方針 ・基本構想 の考え方 ・体系イメージ	【第2回】 ・目標人口 ・基本構想 の概要 ・3次総評価 ・部会進め方 ・市民参画 ・有識者	【第3回】 ・基本構想 ・目標人口 ・7つの柱 目指す姿 ・表現検討 ・PT進捗	【第4回】 ・基本構想 ・4次総体系 ・SDGs ・有識者ヒア ・各部会 進捗報告 ・PT	【第5回】 ・基本構想 ・4次総体系 ・7つの柱 進捗 ・政策施策 評価 ・分野別進捗 ・市民参画	【第6回】 ・基本構想 骨子 ・基本計画 骨子 ・7つの柱 修正	【第7回】 ・7つの柱 ・パブコメ① 結果 ・分野別計画 ・Voice報告	【第8回】 ・重点目標 ・横断的視点	【第9回】 ・重点目標 ・7つの柱 ・分野別計画 ・基本認識 ・各区の取組	【第10回】 ・パブコメ② 案 ・シンポジウム 情報提供 ・有識者ヒア リング結果	【第11回】 ・パブコメ② 結果 ・議案上程用 原案説明	【第12回】 ※未定	【第13回】 ※未定	【第14回】 ※未定										
市民参画		市長ミーティング室 ● 市民アンケート ●					パブコメ① ● Voice of しずおか ●						市長ミーティング室 ● (調整中) ● パブコメ② ● シンポジウム ● 市民アンケート (指標)												
有識者ヒアリング		実施											左記の他、各局が個別に実施する市民参画手続で得られる市民意見なども、4次総策定の参考としていく。												
議会対応		● 会派説明					● 会派説明 ● 市議会協議会						● 会派説明 ● 会派説明 ● 会派説明 ● 市議会協議会												